

KORG DIGITAL PIANO
CONCERT

NC-500 BR DB SW

NC-300 BR DB

取扱説明書

お買い上げいただきまして、ありがとうございます。
本製品を末永くご愛用いただくためにも、この取扱
説明書をよくお読みになって、正しい方法でご使用
ください。

KORG

安全上のご注意

ご使用になる前に必ずお読みください

ここに記載した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の方々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。注意事項は誤った取り扱いで生じる危害や損害の大きさ、または切迫の程度によって、内容を「警告」、「注意」の2つに分けています。これらは、あなたや他の方々の安全や機器の保全に関わる重要な内容ですので、よく理解した上で必ずお守りください。

マークについて

製品には下記のマークが表示されています。

WARNING:

TO REDUCE THE RISK OF FIRE OR ELECTRIC SHOCK DO NOT EXPOSE THIS PRODUCT TO RAIN OR MOISTURE.



マークには次のような意味があります。



このマークは、機器の内部に絶縁されていない「危険な電圧」が存在し、感電の危険があることを警告しています。



このマークは注意喚起シンボルであり、取扱説明書などに一般的な注意、警告、危険の説明が記載されていることを表しています。

火災・感電・人身障害の危険を防止するには

図記号の例

	△ 記号は、注意(危険、警告を含む)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれています。左の図は「一般的な注意、警告、危険」を表しています。
	⊘ 記号は、禁止(してはいけないこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「分解禁止」を表しています。
	● 記号は、強制(必ず行うこと)を示しています。記号の中には、具体的な注意内容が描かれることがあります。左の図は「電源プラグをコンセントから抜くこと」を表しています。

以下の指示を守ってください

デジタル・ピアノは、ご家庭の中で身近において、お子さまから専門家の方まで幅広くご愛用いただけます。

デジタル・ピアノは大きくて非常に重いものです。安全に使用していただくためにも、室内での設置場所や日常の取り扱いについては、十分に注意してください。また、設置や移動の際は必ず2人で行ってください。

小さなお子様がご使用になる場合は、ご家族の方が最初に教えてあげてください。

警告

この注意事項を無視した取り扱いをすると、死亡や重傷を負う可能性が予想されます



- ・電源プラグは、必ずAC100Vの電源コンセントに差し込む。
- ・電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりを拭き取る。
感電やショートของ恐れがあります。
- ・本製品はコンセントの近くに設置し、電源プラグへ容易に手が届くようにする。



- ・次のような場合には、直ちに電源を切って電源プラグをコンセントから抜く。
電源コードやプラグが破損したとき
異物が内部に入ったとき
製品に異常や故障が生じたとき
修理が必要なときは、サービス・センターへ依頼してください。



- ・本製品を分解したり改造したりしない。



- ・修理/部品の交換などで、取扱説明書に書かれている以外のことは絶対にしない。
- ・電源コードを無理に曲げたり、発熱する機器に近づけない。また、電源コードの上に重いものを乗せない。電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。
- ・大音量や不快な程度の音量で長時間使用しない。万一、聴力低下や耳鳴りを感じたら、専門の医師に相談してください。
- ・本製品に異物(燃えやすいもの、硬貨、針金など)を入れない。
- ・温度が極端に高い場所(直射日光の当たる場所、暖房機器の近く、発熱する機器の上など)で使用や保管はしない。
- ・振動の多い場所で使用や保管はしない。
- ・ホコリの多い場所で使用や保管はしない。



- ・風呂場、シャワー室で使用や保管はしない。



- ・雨天時の野外などのような湿気の多い場所で、使用や保管はしない。
- ・本製品の上に液体の入ったもの(水や薬品等)を置かない。
- ・本製品に液体をこぼさない。



- ・濡れた手で本製品を使用しない。

注意

この注意事項を無視した取り扱いをすると、傷害を負う可能性または物理的損害が発生する可能性があります



- ・ 正常な通気が妨げられない所に設置して使用する。
- ・ ラジオ、テレビ、電子機器などから十分に離して使用する。
ラジオやテレビ等に接近して使用すると、本製品が雑音を受けて誤動作する場合があります。また、ラジオ、テレビ等に雑音が入ることがあります。
本製品をテレビ等の横に設置すると、本製品の磁場によってテレビ等の故障の原因になることがあります。
- ・ 外装のお手入れは、乾いた柔らかい布を使って軽く拭く。
- ・ 電源コードをコンセントから抜き差しするときは、必ず電源プラグを持つ。
- ・ 本製品の移動時は、本体とスタンドを別にし、必ず2人以上で持ち上げる。



- ・ 電源スイッチをオフにしても、製品は完全に電源から切断されていませんので、製品を使用しないときは電源プラグをコンセントから外してください。



- ・ 他の電気機器の電源コードと一緒にタコ足配線をしない。
本製品の定格消費電力に合ったコンセントに接続してください。
- ・ スイッチやツマミなどに必要以上の力を加えない。
故障の原因になります。
- ・ 外装のお手入れに、ベンジンやシンナー系の液体、コンパウンド質、強燃性のポリッシャーは使用しない。
- ・ 不安定な場所に置かない。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。
- ・ 本製品の上に乗ったり、重いものをのせたりしない。
本製品が損傷したり、お客様がけがをする原因となります。
- ・ 地震時は本製品に近づかない。
- ・ 本製品に前後方向から無理な力を加えない。
本製品が転倒する危険性があります。



- ・ キー・カバー(NC-500のみ)または譜面立ての開閉時は、指や手を挟まないようにする。

付属のスタンドについて



- ・ 取扱説明書に記載されている「スタンドの組み立て方法」に従って確実に設置する。
本製品が転倒してお客様がけがをしたり、本製品が故障する恐れがあります。

付属のイスについて



- ・ ピアノの演奏用にのみ使用する。
イスで遊んだり、イスを踏み台等に使用すると、転倒してお客様がけがをしたり、イスが壊れる恐れがあります。



- ・ 2人以上で腰掛けない。
付属のイスは1人用です。

データについて

操作ミス等により万一異常な動作をしたときに、メモリー内容が消えてしまうことがありますので、大切なデータはデータファイラー(記憶装置)などにセーブしておいてください。またデータの消失による損害については、当社は一切の責任を負いかねますのでご了承ください。

取扱い説明書の表記について

スイッチ類の表記

本体のスイッチ類は[]で括弧しています。

( p.)

:参照ページを表します。



:使用時の注意を表します。

:使用時のヒントなどの内容を表します。

演奏を楽しむためのエチケット


音楽を楽しむときには、周囲への音の配慮も大切です。演奏する時間によって、音量調節をしたり、ヘッドホンを使用しましょう。また、ヘッドホン使用時、または小さな音量での演奏時に、鍵盤の機構上若干のメカニズム音が聞こえます。あらかじめご了承ください。


- * MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- * 掲載されている会社名、製品名、規格名などは、それぞれ各社の商標または登録商標です。


目 次


おもな特長	5	USB(NC-500 のみ)	38
各部の名称とその機能	6	USBとは?	38
上 面	6	USBの接続	38
底 面	8	NC-500とドライバのポートについて	39
演奏するための準備	9	NC-500のMIDI端子について	39
演奏を始める前に	9	USB-MIDIドライバのインストールと設定	40
ヘッドホンを使う	10	故障とお思いになる前に	47
譜面立てを使う	10	仕 様	49
INPUT端子の使い方(NC-500 のみ)	11	NC-500のスタンドの組み立て方法	50
OUTPUT端子の使い方	11	NC-300のスタンドの組み立て方法	52
スピーカー・カバーの取り付け方	11	スイッチ、鍵盤の機能	54
デモ演奏	12	[SOUND]スイッチ	54
音色デモを聴く	12	レコーダー・セクション(NC-500 のみ)	54
ピアノ・ソングを聴く	14	鍵 盤	54
ピアノ・ソングに合わせて練習する(NC-500 のみ)	16	MIDIインプリメンテーションチャート	55
弾いてみましょう	17		
音色を選ぶ(シングル・モード)	17		
2つの音色を重ねて演奏する(レイヤー・モード)	17		
エフェクト(リバーブとコーラス)を加える	18		
ペダルを使う	19		
メトロノームを使う	20		
鍵盤のタッチ感を変える	22		
キーを変更する(移調)	23		
音の高さ(ピッチ)を調整する	24		
音律を選ぶ	24		
演奏を録音 / 再生する(NC-500 のみ)	26		
演奏を録音する	26		
録音した曲を聴く	28		
録音したデータを編集する	29		
演奏データを消去する	30		
録音したデータ量を確認する	30		
MIDI	31		
MIDI(ミディ)とは?	31		
MIDIの接続	31		
MIDIの基本設定	32		
MIDIチャンネルの変更	32		
マルチティンバー音源として本機を使う	33		
プログラムチェンジ	34		
コントロールチェンジ	35		
MIDIデータ・ダンプ(NC-500 のみ)	36		


おもな特長


24種類の高品位サウンド ( p.17)
ステレオ・コンサート・グランドピアノを含む表現力豊かな高品質の音色を24種類内蔵しています。また、同時に2つの音を重ねて演奏できるレイヤー・モードも搭載しています。


エフェクト機能 ( p.18)
コンサート・ホールで演奏しているような響きをシミュレーションすることができるリバーブ効果と、音の広がりを加えることができるコーラス効果の2つのデジタル・エフェクトを搭載しています。


ペダル効果 ( p.19)
付属のペダルでアコースティック・ピアノと同じようにダンパー、ソステヌート、ソフトの3つの効果を得ることができます。また、ダンパー・ペダルとソフト・ペダルには、ペダルを踏む深さにより効果のかかり方が調整できるハーフ・ペダルを使用しています。


メトロノーム機能 ( p.20)
拍子、テンポ、音量を変えることができ、さらにアクセント音にベル音を使用できるメトロノームを内蔵しています。


タッチ・コントロール機能 ( p.22)
ピアノで一番大切な鍵盤を弾く強さによる音の強弱の度合いを、3種類の中から選ぶことができます。


音程の調節 ( p.23)
他の楽器や曲にキー(調)が合わせられないとき、トランスポーズ機能により簡単にキーを変更(移調)して演奏することができます。また、ピッチ・コントロール機能により音程の微調整もおこなうことができます。

音 律 ( p.24)
平均律の他に、2種類の古典音律(キルンベルガー、ヴェルクマイスター)を選択することによって、古典音楽などの再現も可能になります。また、音色にアコースティック・ピアノを選んだときは、ストレッチ・チューニングが自動的に選ばれます。

INPUT 端子(NC-500のみ) ( p.11)
CDプレーヤーなどオーディオ機器や他の電子楽器などと接続して、NC-500のスピーカーやヘッドホンからこれらの音を出すことができます。

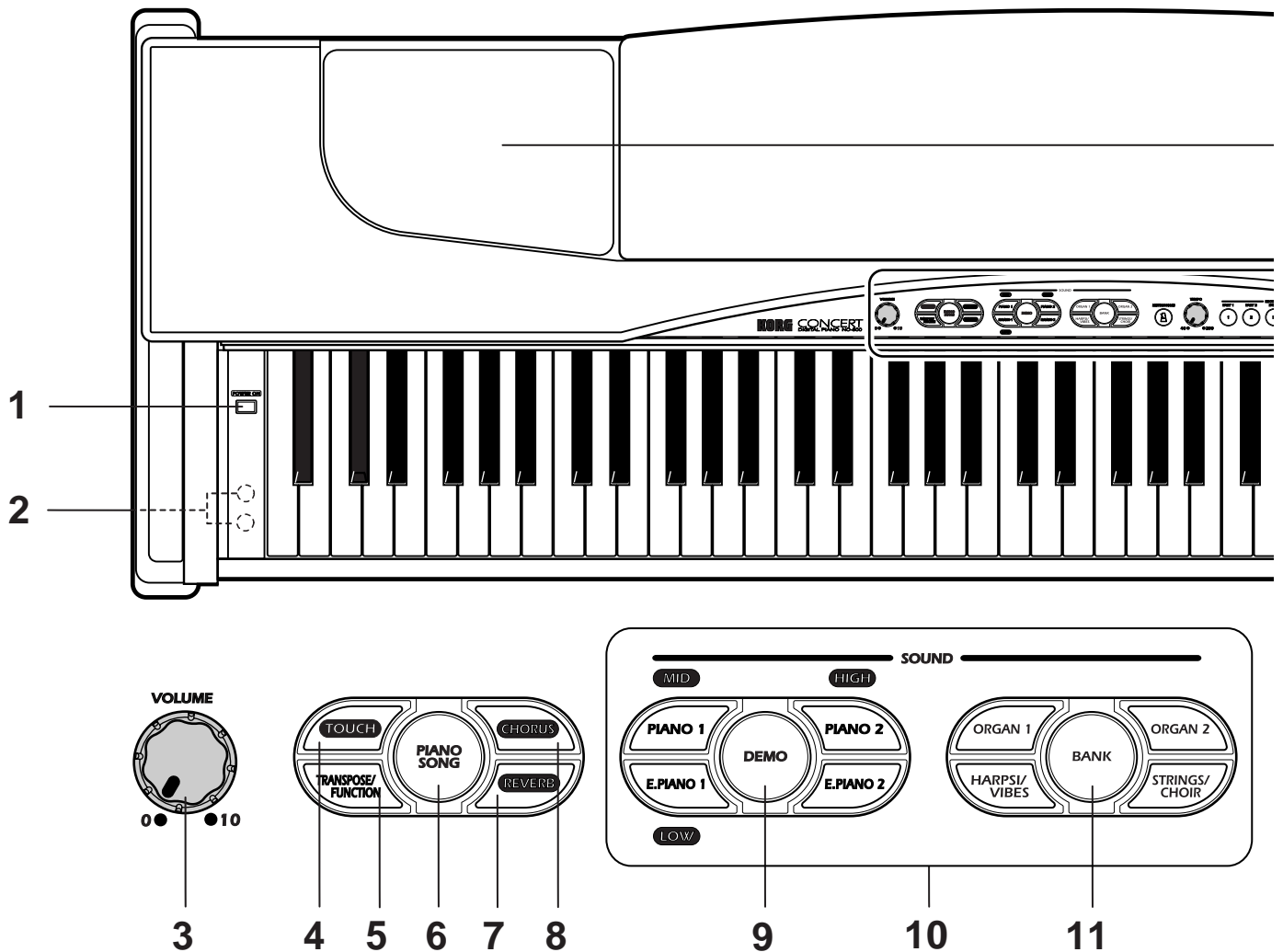
レコーダー機能(NC-500のみ) ( p.26)
自分の演奏を、そのまま録音、再生できるレコーダーを内蔵しています。テープレコーダーを操作する感覚で使用できます。

MIDI ( p.31)
電子楽器やコンピューターの間で、演奏情報のやりとりを行う統一規格MIDIを装備しています。コンピューターや他のMIDI機器と接続して相互にコントロールしたり、データのやりとりができるようになります。本機を16パート・マルチティンバー音源としても使用することができます。

USB(NC-500のみ) ( p.38)
自分の演奏したデータをコンピューターに保存したり、自動演奏させるなど直接コンピューターと接続して相互にコントロールしたり、データのやりとりができるようになります。

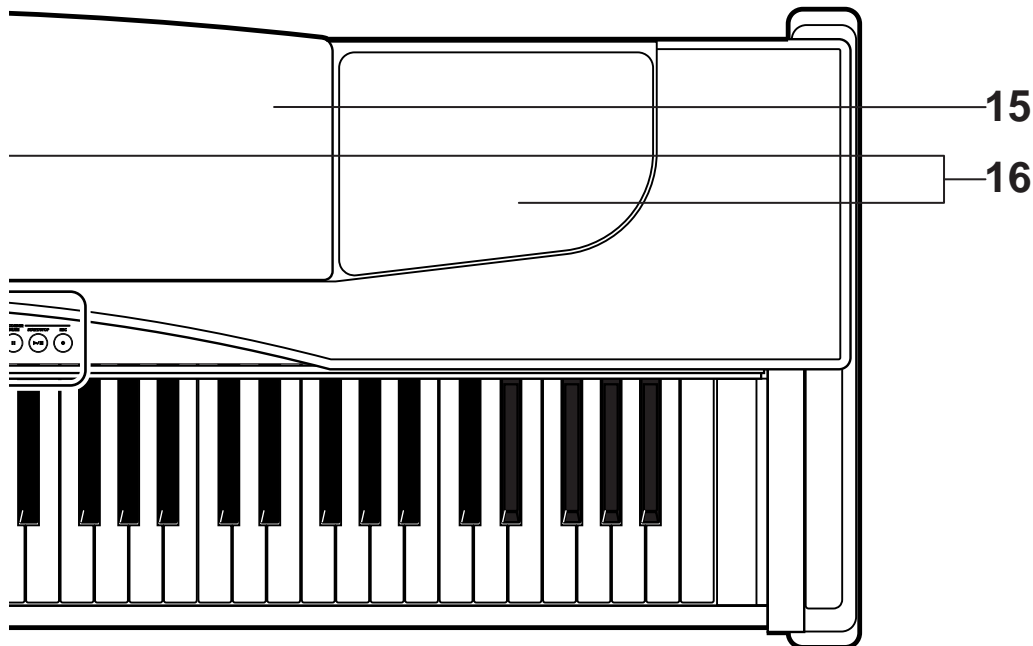
各部の名称とその機能

上 面

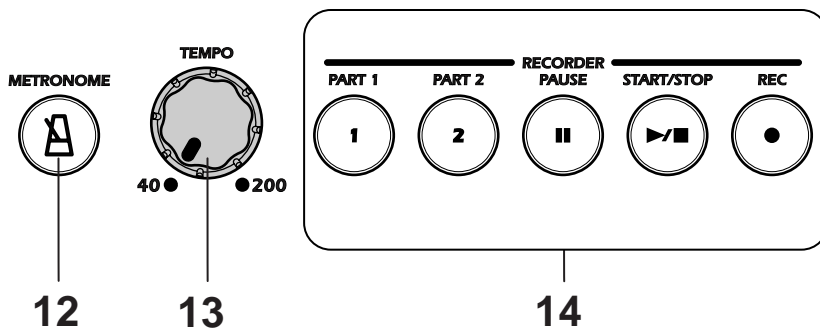


1. **[POWER](パワー)スイッチ**
電源をオンまたはオフにします。押すたびにオンとオフが切り替わります。(p.9)
2. **ヘッドホン端子**
ステレオ・ヘッドホン(標準プラグ)を接続します。ステレオ・ヘッドホンは2個を同時につなぐことができます。(p.10)
3. **[VOLUME](ボリューム)ツマミ**
内蔵スピーカー、PHONES端子、およびOUTPUT端子から出る音量をコントロールします。(p.10)
4. **[TOUCH](タッチ)スイッチ**
鍵盤のタッチ(感度)を選びます。(p.22)
5. **[TRANSPOSE/FUNCTION](トランスポーズ/ファンクション)スイッチ**
移調するとき、ピッチ、レコーダーやMIDIに関する設定などに使います。
6. **[PIANO SONG](ピアノ・ソング)スイッチ**
42曲のピアノ・ソングのデモを選びます。(p.14)
7. **[REVERB](リバーブ)スイッチ**
音に残響を加えるリバーブをオンまたはオフにします。(p.18)
8. **[CHORUS](コーラス)スイッチ**
音に広がりを与えるコーラスをオンまたはオフにします。(p.18)

これはNC-500の図です



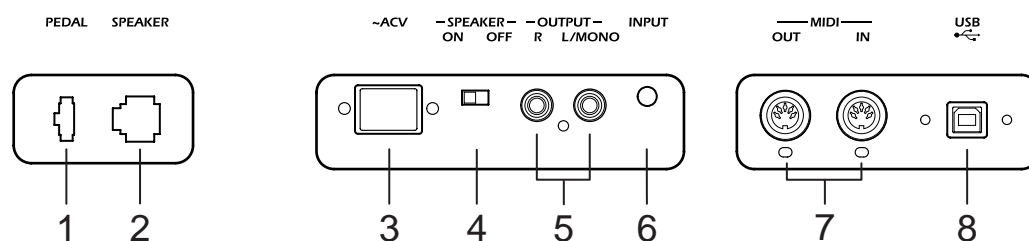
RECORDERセクションは、NC-500のみです



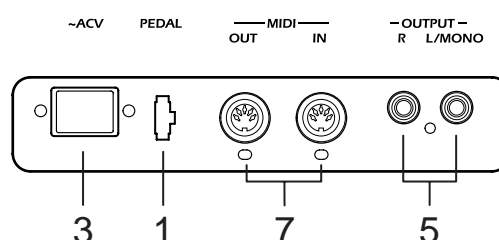
9. [DEMO](デモ)スイッチ
8曲の音色デモを選びます。(p.12)
10. [SOUND](サウンド)スイッチ
8つのスイッチから音色を選びます。[BANK]スイッチと組み合わせて、24(8×3バンク)音色から選択します。同時に2つの音色で演奏(レイヤー・モード)することもできます。(p.17)
11. [BANK](バンク)スイッチ
使用する音色を3つのバンクの中から選びます。(p.17)
12. [METRONOME](メトロノーム)スイッチ
メトロノームをスタート、ストップします。(p.20)
13. [TEMPO](テンポ)ツマミ
メトロノームやレコーダーのテンポを調節します。(p.16)
14. RECORDER(レコーダー)セクション(NC-500のみ)
演奏を録音または再生します。(p.26)
15. 譜面立て(p.10)
16. スピーカー
 スピーカー・カバーは着脱可能ですが、通常は付けたままの状態でご使用ください。
 スピーカー・カバーを外して付けなおす場合は、 p.11「スピーカー・カバーの取り付け方」を参照してください。






底 面

NC-500



NC-300



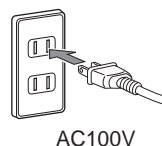
1. **PEDAL(ペダル)端子**
付属の専用ペダル・ユニットを接続します。
2. **SPEAKER(スピーカー)端子(NC-500のみ)**
NC-500のスタンドに内蔵されたスピーカーを接続するための専用端子です。
3. **AC IN 端子**
付属の電源コードを接続します。( p.51、53)
4. **[SPEAKER](スピーカー)スイッチ(NC-500のみ)**
NC-500のスピーカーから音を出さないときはオフにします。
5. **OUTPUT(アウトプット)端子**
アンプ付きスピーカーなどのインプット端子につないで音を出したり、音響機器などに接続するときに使用する端子です。モノラル標準プラグのケーブルを使用します。( p.11)
6. **INPUT(インプット)端子(NC-500のみ)**
CDプレーヤーなどオーディオ機器や他の電子楽器などと接続して、NC-500のスピーカーやヘッドホンから音を出すための端子です。ステレオ・ミニプラグのケーブルを使用します。( p.11)
7. **MIDI 端子**
シンセサイザー、シーケンサー、リズム・マシンなどのMIDI機器と接続し、情報を交換するための端子です。( p.31)
 - MIDI IN MIDI情報を受信します。本機をコントロールする外部MIDI機器のMIDI OUTと接続します。
 - MIDI OUT MIDI情報を送信します。本機からコントロールする外部MIDI機器のMIDI INと接続します。
8. **USB 端子(NC-500のみ)**
コンピューターなどとUSBケーブルで直接、接続しデータの交換をするための端子です。( p.38)

演奏するための準備

演奏を始める前に

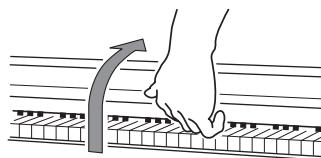
電源の接続

電源コードのコネクターを、本体AC INのソケットに差し込みます。次に電源コードのプラグをコンセントに差し込みます。






キ - カバ - を開ける(NC-500のみ)

キーカバーのへりの中央部分を軽く持ち上げて、支えながら静かに奥の方へスライドさせてください。



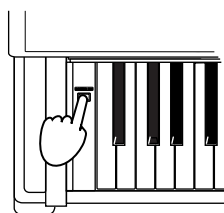
キーカバーを閉じるときは、へりの中央部を軽く持ち、手前へスライドさせてください。

-  開閉中は、指や手を挟まないように十分注意してください。
-  無理な力を加えたり乱暴に開閉すると、故障の原因となります。
-  キーカバーを開けるときは、キーカバーの上に紙やコインなどが無いことを確認してください。中に入り込む恐れがあります。


電源をオンにする

[POWER]スイッチを押してオンにします。

電源を入れると、フロント・パネルの[SOUND]や[BANK]スイッチなどが点灯します。



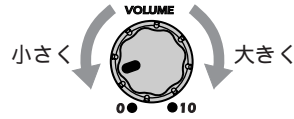
オフにするときは、もう一度[POWER]スイッチを押してください。


-  電源をオフにすると、全て工場出荷時の設定に戻ります。ただし、レコーダー機能(NC-500の場合)で録音した本体メモリー内の演奏データは消えません。

音量を調節する

[VOLUME]ツマミを回して音量を調整します。

内蔵スピーカー、ヘッドホン端子、およびOUTPUT端子への出力の調整ができます。音量を小さくするときは左側へ、大きくするときは右側へツマミを回します。[VOLUME]ツマミが“ 0 ”の位置では音は出ません。



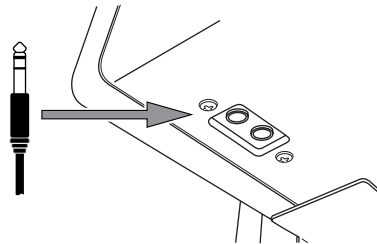
 [VOLUME]ツマミは“ 0 ”の位置から徐々に音量を上げてください。


ヘッドホンを使う


ヘッドホンを差し込むと 本機のスピーカーからは音が出なくなります。夜間などの周囲へ伝わる音量が気になるときなどにヘッドホンをお使いください。

ヘッドホン端子は2つありますので、2人で演奏を楽しむことができます。

本体左下側にあるヘッドホン端子に、ステレオ・ヘッドホンのプラグ(標準プラグ)を差し込みます。

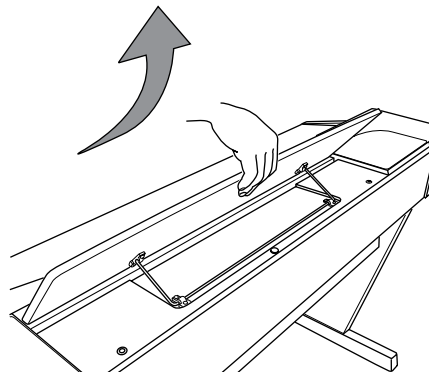


 「ミニ 標準」の変換プラグのついたヘッドホンをご使用の場合、プラグの抜き差しは変換プラグを持って行ってください。

 ヘッドホンを使用する際は、耳の保護のために大きな音量で長い時間聴かないでください。

譜面立てを使う

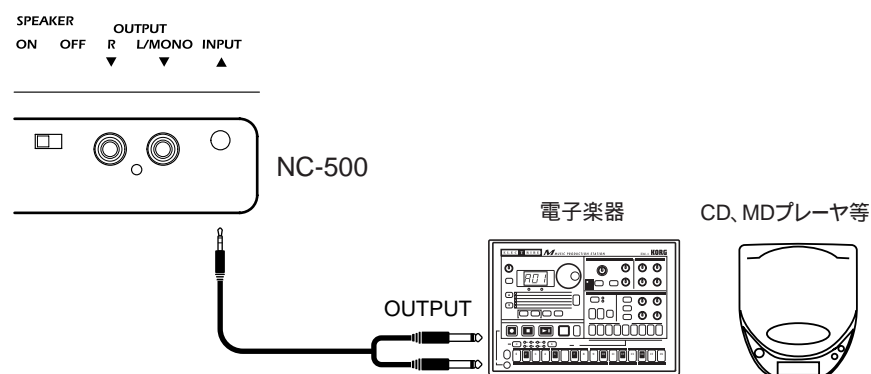
譜面立てを起こし、本体の溝に差し込みます。



譜面立てを閉じるときは、両手で譜面立てを持って閉じてください。

INPUT 端子の使い方(NC-500 のみ)

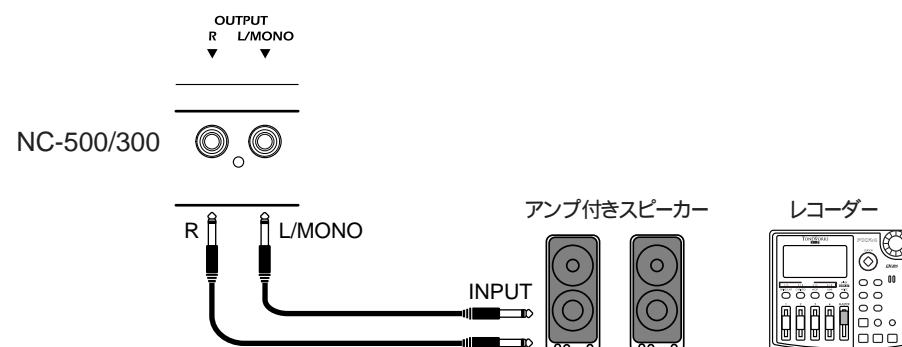
INPUT端子は、CDプレーヤーなどのオーディオ機器や他の電子楽器などと接続して、NC-500のスピーカーやヘッドホンから音を出すときに使用します。接続にはステレオ・ミニプラグを使用してください。




OUTPUT 端子の使い方


OUTPUT端子は、本機の内蔵スピーカー以外の音響機器で演奏を聞くとときや、録音機材に録音するときなどに使用します。モノラル標準プラグのケーブルを使用します。アンプ付きスピーカーや録音機器などのINPUT端子などに、ケーブルを接続してください。モノラルで接続するときは、L/MONO側に接続してください。

OUTPUT端子からの出力レベルは、[VOLUME]ツマミで調整してください。



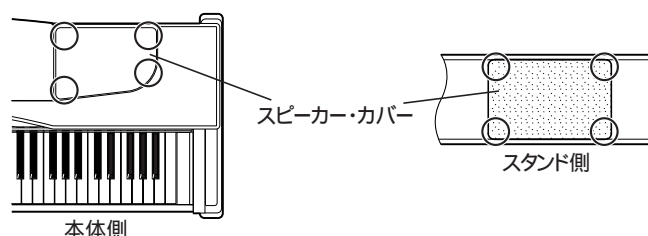
MeMO 外部機器のスピーカーを使う場合、ヘッドホンを接続すると本機のスピーカーからは音が出なくなります。また、NC-500は[SPEAKER]スイッチをオフにして音を出さなくすることもできます。

 各接続は必ず電源をオフの状態で行ってください。不注意な操作を行うと、本機や接続した機器などを破損したり、誤動作を起こす原因となりますので十分に注意してください。

 接続するケーブルは別売品です。接続する機器に合わせて市販品をお求めください。

スピーカー・カバーの取り付け方

一度外した本体のスピーカー・カバーを取り付ける際は、下図の4ヶ所の丸印の部分をやっくり押し込んでください。NC-500のスタンドのスピーカー・カバーの場合も同様に、角の4隅部分をゆっくり押し込んで取り付けてください。






デモ演奏

本機には、デモ曲が全部で50曲収録されています。いろいろな音色を使い豊かな表現力を紹介する音色デモが8曲と、高品位なピアノ音色を使い、馴染みのあるピアノ曲などをあつかったピアノ・ソングが42曲入っています。このピアノ・ソングのうち32曲はピアノ練習としても使うことができます。

音色デモを聴く

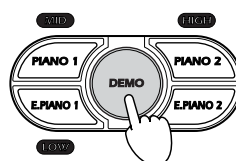
音色デモ一覧

No.	[SOUND]スイッチ	曲 名	作 者
1	[PIANO 1]	KORGオリジナル I Heard That Rhapsody	T.イマイズミ
2	[PIANO 2]	KORGオリジナル Reflection	M.テンピア
3	[E.PIANO 1]	KORGオリジナル Three Hands	H.ミナミ
4	[E.PIANO 2]	KORGオリジナル All The Ones You Don't Know	M.テンピア
5	[ORGAN 1]	KORGオリジナル Cool "B"	M.テンピア
6	[ORGAN 2]	フーガ ト短調	J.S.バッハ
7	[HARPSI/VIBE]	イタリア協奏曲	J.S.バッハ
8	[STRINGS/CHOIR]	G線上のアリア	J.S.バッハ

-  音色デモの演奏中に鍵盤を弾いて音を出すことはできますが、[SOUND]スイッチで音色を変えることはできません。
-  音色デモの演奏中はエフェクト(リバース、コーラス)の設定を変えることはできません。
-  音色デモはテンポを変えることができません。

ワンタッチですべての音色デモを演奏するときは

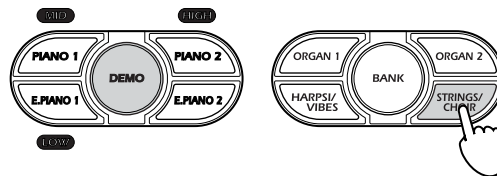
- [DEMO]スイッチを押してください。
[DEMO]スイッチが点灯し、[SOUND]スイッチが順番に点滅します。
曲を選ばないまま約3秒経過すると、音色デモのNo.1から順番に演奏を開始します。
演奏中は割り当てられている[SOUND]スイッチが点灯します。音色デモのNo.8の演奏が終わると、再び音色デモのNo.1に戻り演奏を続けます。



- 演奏を止めるときは[DEMO]スイッチを押してください。
[DEMO]スイッチと点灯していた[SOUND]スイッチが消灯し演奏が止まります。このとき、音色デモ・モードに入る前に選んでいた音色のバンクで[SOUND]スイッチの[PIANO 1]が点灯し、通常の演奏できる状態に戻ります。

聴きたい音色デモを演奏するときは

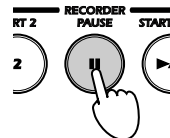
1. [DEMO]スイッチを押してください。
[DEMO]スイッチが点灯し、[SOUND]スイッチが順番に点滅します。
2. 前ページの音色デモ一覧から聴きたい曲が割り当てられている[SOUND]スイッチを押してください。
選んだ[SOUND]スイッチが点灯し、演奏を開始します。
曲を選ばないまま約3秒経過すると、自動的に音色デモのNo.1からNo.8の順番で繰り返し演奏します。音色デモの演奏が終わると、次の曲へ順番に繰り返し演奏されます。
3. 音色デモ演奏中に、他の音色デモに切り替えるときは、そのデモ・ソングが割り当てられている[SOUND]スイッチを押してください。
たとえば、音色デモのNo.1を演奏中にNo.8に切り替えるときは、[SOUND]スイッチの[STRINGS/CHOIR]を押してください。選んだスイッチが点灯し、音色デモの演奏は、No.8に切り替わり順番に演奏を続けます。



4. 演奏を止めるときは[DEMO]スイッチを押してください。
[DEMO]スイッチと点灯していた[SOUND]スイッチが消灯し演奏が止まり、通常の演奏できる状態に戻ります。

音色デモ演奏を一時停止するときは(NC-500のみ)

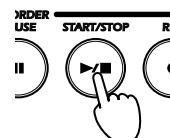
1. 演奏中に[PAUSE]スイッチを押すと一時停止します。
[PAUSE]スイッチが点灯します。



2. もう一度[PAUSE]スイッチを押すと一時停止したところから演奏を開始します。
[PAUSE]スイッチが消灯します。

音色デモ演奏を停止するときは(NC-500のみ)

1. 演奏中に[START/STOP]スイッチを押すと演奏が停止します。
このとき、[DEMO]スイッチはまだ点灯中です。ここで[DEMO]スイッチを押すと通常の演奏できる状態に戻ります。



2. もう一度[START/STOP]スイッチを押すとその曲の最初から演奏します。

ピアノ・ソングを聴く

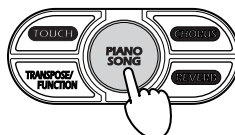
ピアノ・ソング一覧

No.	鍵盤	曲 名	作 者
1	A0	プレリユード(平均律第1番より)	J.S.バッハ
2	A#0	インベンション第1番	J.S.バッハ
3	B0	主よ、人の望みの喜びよ	J.S.バッハ
4	C1	ソナタ K.545 第1楽章	W.A.モーツァルト
5	C#1	トルコ行進曲(ソナタ K.331より)	W.A.モーツァルト
6	D1	エリーゼのために	L.v.ベートーヴェン
7	D#1	「悲愴」第2楽章	L.v.ベートーヴェン
8	E1	乙女の祈り	T.パダジェフスカ
9	F1	アラベスク Op.100-2(25練習曲より)	F.ブルグミュラー
10	F#1	ステリアの女 Op.100-14(25練習曲より)	F.ブルグミュラー
11	G1	貴婦人の乗馬 Op.100-25(25練習曲より)	F.ブルグミュラー
12	G#1	春の歌 Op.62-6(無言歌集 第6巻より)	F.メンデルスゾーン
13	A1	トロイメライ Op.15-7	R.シューマン
14	A#1	荒野のばら	G.ランゲ
15	B1	紡ぎ歌	A.エルメンライヒ
16	C2	人形の夢と目覚め	T.オースティン
17	C#2	亜麻色の髪の乙女	C.ドビュッシー
18	D2	アラベスク 第1番	C.ドビュッシー
19	D#2	プレリユード(ベルガマスク組曲より)	C.ドビュッシー
20	E2	ゴリウオーグのケーキウォーク	C.ドビュッシー
21	F2	月の光	C.ドビュッシー
22	F#2	ワルツ 第6番 変二長調「子犬」Op.64-1	F.ショパン
23	G2	ワルツ 第7番 水短調 Op.64-2	F.ショパン
24	G#2	ノクターン 第2番 Op.9-2	F.ショパン
25	A2	マズルカ 第5番 Op.7-1	F.ショパン
26	A#2	幻想即興曲 Op.66	F.ショパン
27	B2	別れの曲 Op.10-3	F.ショパン
28	C3	黒鍵のエチュード	F.ショパン
29	C#3	プロムナード(展覧会の絵より)	M.P.ムソルグスキー
30	D3	ジムノペディ第1番	E.サティ
31	D#3	ジユトウ・ヴ	E.サティ
32	E3	愛の挨拶	E.エルガー
33	F3	ラヴィン・ユー	ミニー・リパートン
34	F#3	戦場のメリークリスマス	坂本 龍一
35	G3	嵐ヶ丘	ケイト・ブッシュ
36	G#3	やさしく歌って	ロバータ・フラック
37	A3	マルコ・ポーロ	ボブ・ジェームス
38	A#3	クライフォーザムーン	ザ・スクウェア
39	B3	スペイン	チック・コリア
40	C4	わが心のジョージア	ホーギー・カーマイケル
41	C#4	チュニジアの夜	D.ガレスピー & J.ヘンドリックス
42	D4	エンターテイナー	スコット・ジョプリン

MeMO No.1...No.32の曲は、左右のパートを分けて再生することができます。

ワンタッチですべてのピアノ・ソングを演奏するときは

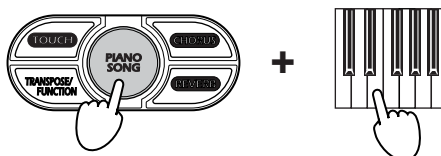
1. [PIANO SONG]スイッチを押してください。
[PIANO SONG]スイッチが点灯します。曲を選ばないまま約3秒経過すると、ピアノ・ソングのNo.1から順番に演奏を開始します。ピアノ・ソングのNo.42の演奏が終わると、再びNo.1に戻り演奏を続けます。



2. 演奏を止めるときは[PIANO SONG]スイッチを押してください。
[PIANO SONG]スイッチが消灯し演奏が止まります。このとき、ピアノ・ソング・モードに入る前に選んでいた音色のバンクで[SOUND]スイッチの[PIANO 1]が点灯し、通常の演奏できる状態に戻ります。

聴きたいピアノ・ソングを演奏するときは

1. [PIANO SONG]スイッチを押しながら鍵盤のA0...D4のどれか1つを押します。
鍵盤に割り当てられているピアノ・ソングの演奏がスタートします。



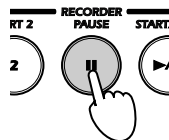
2. 演奏を止めるときは[PIANO SONG]スイッチを押してください。
点灯していた[PIANO SONG]スイッチが消灯し演奏が止まり、通常の演奏できる状態に戻ります。

MeMO ピアノ・ソングの演奏中に鍵盤を弾くとピアノ音色で演奏できます。また、ピアノ・ソングの演奏中に[SOUND]スイッチで好きな音色に変えることもできます。

! ピアノ・ソングの演奏中はエフェクト(リバーブ、コーラス)の設定を変えることはできません。

ピアノ・ソング演奏を一時停止するときは(NC-500のみ)

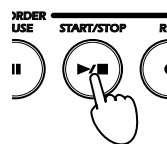
1. 演奏中に[PAUSE]スイッチを押すと一時停止します。
[PAUSE]スイッチが点灯します。



2. もう一度[PAUSE]スイッチを押すと一時停止したところから演奏を開始します。
[PAUSE]スイッチが消灯します。

ピアノ・ソング演奏を停止するときは(NC-500のみ)

1. 演奏中に[START/STOP]スイッチを押すと演奏が停止します。
このとき、[PIANO SONG]スイッチはまだ点灯中です。ここで[PIANO SONG]スイッチを押すと通常の演奏できる状態に戻ります。

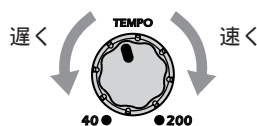


2. もう一度[START/STOP]スイッチを押すとその曲の最初から演奏します。

ピアノ・ソングのテンポを変えるときは

ピアノ・ソングのNo.1...No.32はテンポが変えられます。

1. 演奏中または一時停止のときに、[TEMPO]ツマミでテンポを調整します。

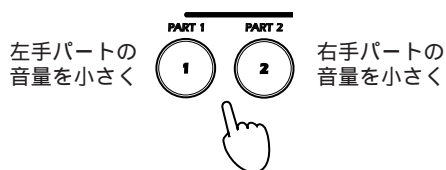


ピアノ・ソングに合わせて練習する(NC-500のみ)

右手と左手を別々に練習するときは

ピアノ・ソングのNo.1...No.32の曲は、右手または左手のパートのどちらかをデモ演奏させ、もう一方のパートの音量を小さくして自分で演奏することができます。

1. No.1...No.32のピアノ・ソングから曲を選びます。
2. 左手のパートの音量を小さくするときは[PART 1]スイッチを押します。右手のパートの音量を小さくするときは[PART 2]スイッチを押します。
押したスイッチが点滅します。曲に合わせて演奏してみましょう。



3. 左右のパートを同じ音量に戻すときは、点滅しているパートスイッチを押します。

MeMO ピアノ・ソングの演奏中に、音量を小さくしたパートだけさらに音量を調節できます。
[TOUCH]スイッチを押しながら[SOUND]スイッチの[HARPSI/VIBES]を何度か押すと、音量が小さくなっていきます。また、[TOUCH]スイッチを押しながら[SOUND]スイッチの[STRINGS/CHOIR]を何度か押すと、音量が大きくなっていきます。



ピアノ・ソングのNo.33...No.42は右手と左手を別々に練習することはできません。



ピアノ・ソングのNo.33...No.42はテンポを変えられません。

弾いてみましょう

音色を選ぶ(シングル・モード)

本機は高品位な音色を24種類の中から選ぶことができます。

1. 弾きたい音色の[SOUND]スイッチを1つ選びます。
選んだスイッチが点灯します。
2. [BANK]スイッチを押して3種類の中から音色を選びます。
押すたびに[BANK]スイッチが赤、緑、オレンジと変わり、バンク(音色)が切り替わります。たとえば、Mellow Pianoの音色を選ぶには、[SOUND]スイッチの[PIANO 2]を押してスイッチのランプを点灯させます。そのあと[BANK]スイッチを2回押してバンクC(Mellow Piano)を選びます。このとき[BANK]スイッチはオレンジになります。

MeMO それぞれの[SOUND]スイッチには、電源をオフにするまで選んだバンクの音色がそれぞれ記憶されます。

MeMO 電源をオフにすると、各[SOUND]スイッチはバンクAの音色になります。

音色一覧

[SOUND]スイッチ (点灯色)	バンクA (赤)	Osc#	バンクB (緑)	Osc#	バンクC (オレンジ)	Osc#
[PIANO 1]	グランド・ピアノ1 Grand Piano 1	2	スタンダード・ピアノ Standard Piano	1	ホンキートンク・ピアノ Honky Tonk Piano	2
[PIANO 2]	グランド・ピアノ2 Grand Piano 2	2	ブライト・ピアノ Bright Piano	1	メロウ・ピアノ Mellow Piano	1
[E.PIANO 1]	エレクトリック・ピアノ1 E. Piano 1	1	ソフト・エレクトリック・ピアノ Soft E.P.	1	クラビ Clavi	1
[E.PIANO 2]	エレクトリック・ピアノ2 E. Piano 2	1	ビンテージ・エレクトリック・ピアノ Vintage E.P.	1	エレクトリック・ピアノ・パッド E.P. Pad	2
[ORGAN 1]	ジャズ・オルガン1 Jazz Organ 1	2	ジャズ・オルガン2 Jazz Organ 2	2	ジャズ・オルガン3 Jazz Organ 3	2
[ORGAN 2]	チャーチ・オルガン1 Church Organ 1	3	チャーチ・オルガン2 Church Organ 2	1	チャーチ・オルガン3 Church Organ 3	1
[HARPSI/VIBE]	ハーpsiコード1 Harpsichord 1	1	ハーpsiコード2 Harpsichord 2	2	ビブラホーン Vibraphone	1
[STRINGS/CHOIR]	ストリングス Strings	1	スロー・ストリングス Slow Strings	2	クワイア Choir	1

Osc#の数値は使用オシレーター数です(「p.48「最大発音数について」参照)。

2つの音色を重ねて演奏する(レイヤー・モード)

2つの音色を重ねて演奏することができます。これを、レイヤー・モードと呼びます。

1. 重ねる音色の[SOUND]スイッチを2つ同時に押してください。
選んだ2つの[SOUND]スイッチが点灯します。
バンクがちがう2つの音色を重ねる場合は、2つの[SOUND]スイッチを同時に押す前に、シングル・モードで各[SOUND]スイッチを押したときのバンク(音色)を前もって選んでください。
たとえば、[PIANO 2]のバンクA(Grand Piano 2)と[ORGAN 1]のバンクB(Jazz Organ 2)の音色を重ねて演奏するときは、シングル・モードで[PIANO 2]にはバンクA(Grand Piano 2)を、そして[ORGAN 1]にはバンクB(Jazz Organ 2)を選んだ後、両方のスイッチを同時に押してください。

MeMO レイヤー・モードを選ぶと、選んだ音色のオシレーター数によって同時発音数が制限されます(「p.48「最大発音数について」参照)。

MeMO 同じ[SOUND]スイッチに割り当てられた音色を同時にレイヤー・モードで演奏することはできません。たとえば[PIANO 1]のGrand Piano 1とStandard Pianoを同時に選ぶことはできません。

レイヤー・モードで音のバランスを調節するときは

1. 重ねる音色の[SOUND]スイッチを2つ同時に押してください。
このとき、音量を小さくする側の[SOUND]スイッチを押しながら、音量を大きくする側の[SOUND]スイッチを何度か押して音量を調整します。

シングル・モードに戻るときは

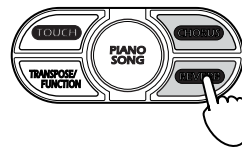
1. [SOUND]スイッチの中から1つだけ音色を選びます。
選んだ[SOUND]スイッチが点灯し、シングル・モードに戻ります。

エフェクト(リバーブとコーラス)を加える

本機は、リバーブとコーラスの2つのエフェクトを内蔵しています。

リバーブは音に残響と深みを加え、コンサート・ホールで演奏しているような臨場感のあるサウンドにします。コーラスは音にうねりを加え、広がりのある豊かなサウンドにします。エフェクトの設定は音色ごとに記憶されます。

1. リバーブをオンにするときは[REVERB]スイッチを押します。コーラスをオンにするときは[CHORUS]スイッチを押してください。
それぞれのスイッチが点灯します。



2. リバーブやコーラス効果の設定を変えるときは、[REVERB]または[CHORUS]スイッチを押しながら、[SOUND]スイッチの[E.PIANO 1](LOW)、[PIANO 1](MID)、[PIANO 2](HIGH)のいずれかのスイッチを押します。




* 図は、リバーブ効果を「深く」に設定する場合

[SOUND]スイッチ	リバーブ効果の設定	コーラス効果の設定
[E.PIANO 1](LOW)	浅 い	浅 い
[PIANO 1](MID)	標 準	標 準
[PIANO 2](HIGH)	深 い	深 い

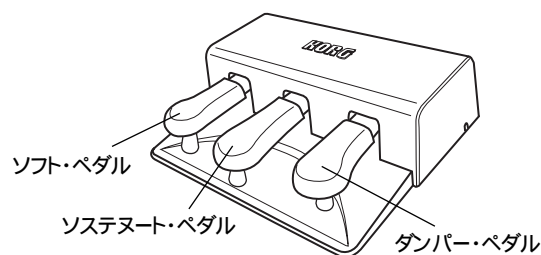
3. リバーブをオフにするときは[REVERB]スイッチを押します。コーラスをオフにするときは[CHORUS]スイッチを押してください。
それぞれのスイッチが消灯します。

MeMO シングル・モードのエフェクトの設定が記憶されますので、レイヤー・モードに移ったときは、シングル・モードで最後に選んだエフェクトの設定になります。また、レイヤー・モードでエフェクトの設定を変更しても、シングル・モードに戻るとレイヤー・モードに入る前のシングル・モードの設定に戻ります。

MeMO リバーブやコーラスを使った場合は最大同時発音数が少なくなります( p.48「最大発音数について」参照)。

ペダルを使う

ダンパー、ソステヌート、ソフトの3種類の機能をもったペダルがあります。これらの機能を使って演奏をより効果的に表現することができます。



ダンパー・ペダル

ペダルを踏んでいる間は音が長く伸び、余韻のある豊かな響きになります。ペダルを踏み込む深さでダンパーのかかり具合を変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。

ソステヌート・ペダル

任意の音に対してのみダンパー効果をかけます。ペダルを踏んだときに押えられていた鍵盤の音だけにダンパー効果がかかり、踏んでいる間はその音だけが長く伸びます。ペダルを踏んでいる間に新たに弾いた音に対してはダンパー効果はかかりません。

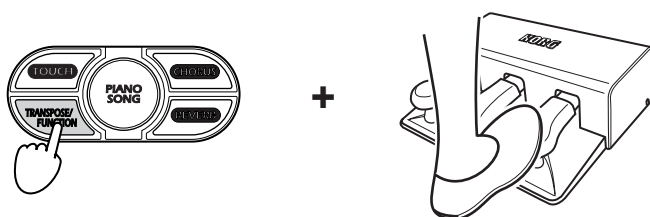
ソフト・ペダル

ペダルを踏んでいる間は、音が柔らかくおとなしい感じになります。ペダルを踏み込む深さで音の柔らかさを変化させることができます(ハーフ・ペダル効果)。

レイヤー機能時のペダルの設定

レイヤー・モードではダンパー・ペダルをどちらかの音色だけに使用することもできます。

1. [TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながらダンパー・ペダルを踏んでください。
ペダルを踏むたびに、レイヤーで選んでいる[SOUND]スイッチが交互または同時に点灯します。



2. ダンパーをかける[SOUND]スイッチが点灯したときに[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを放してください。

MeMO ペダル設定は電源をオフにすると工場出荷時の設定に戻ります。

メトロノームを使う

練習に便利な拍子や、テンポなどを変えることができるメトロノームを内蔵しています。

メトロノームを鳴らすときは

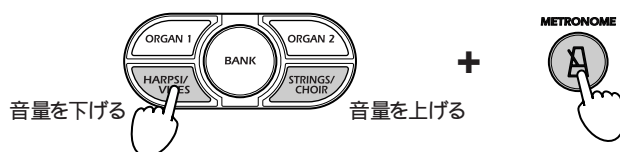
1. [METRONOME]スイッチを押します。
[METRONOME]スイッチが点灯し、[TEMPO]ツマミで設定されたテンポでメトロノームがスタートします。



2. メトロノームを止めるときは、もう一度[METRONOME]スイッチを押します。
[METRONOME]スイッチが消灯し、メトロノームがストップします。

メトロノームの音量を調節するときは

1. [METRONOME]スイッチを押してメトロノームをスタートします。
2. 音量を下げるときは、[METRONOME]のスイッチを押しながら[SOUND]スイッチの[HARPSI/VIBES]を繰り返し押してください。
音量を上げるときは、[METRONOME]スイッチを押しながら[SOUND]スイッチの[STRINGS/CHOIR]を繰り返し押してください。



3. もとの音量に戻すときは、[METRONOME]スイッチを押しながら[SOUND]スイッチの[HARPSI/VIBES]と[STRINGS/CHOIR]を同時に押してください。

スイッチ	設 定
[HARPSI/VIBE]	音量を下げる
[STRINGS/CHOIR]	音量を上げる

テンポを調整するときは

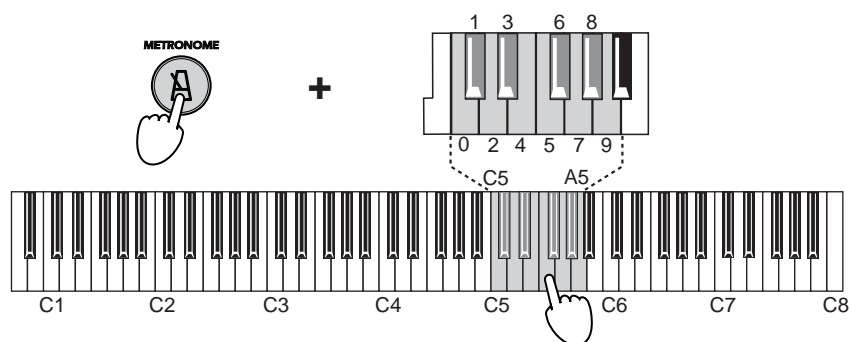
1. [METRONOME]スイッチを押してメトロノームをスタートします。
2. [TEMPO]ツマミをまわして調整します

テンポを数値入力するときは

[TEMPO]ツマミでおおよそのテンポを設定することはできますが、正確に数値でテンポ値を設定するには鍵盤を使います。設定できる範囲は、♩ = 40...200 です。


1. [METRONOME]スイッチを押しながら対応するC5...A5の鍵盤を押して3桁の数字でテンポを指定します。(次ページの対応表を参照)

MeMO 2桁の数字のときには必ず“0”を選んでください。例えば、72のときは“072”と指定します。



鍵盤	数字	鍵盤	数字
C5	0	C#5	1
D5	2	D#5	3
E5	4	F5	5
F#5	6	G5	7
G#5	8	A5	9

例: テンポを168にするとときは、[METRONOME]スイッチを押しながら、C#5(1)、F#5(6)、G#5(8)の順に鍵盤を押します。

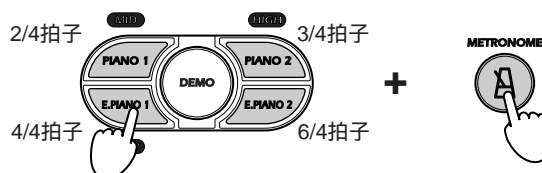
 テンポを40...200の範囲外の数値を入力してもメトロノームのテンポは変わりません。

拍子を設定するときは

小節の1拍めにアクセント音が入ります。

[SOUND]スイッチ	拍 子
[PIANO 1]	2拍子 (2/4, 2/8...)
[PIANO 2]	3拍子 (3/4, 3/8...)
[E.PIANO 1]	4拍子 (4/4, 4/8...)
[E.PIANO 2]	6拍子 (6/4, 6/8...)

1. [METRONOME]スイッチを押してメトロノームをスタートします。
2. [METRONOME]スイッチを押しながら、設定する拍子に対応した[SOUND]スイッチを押します。



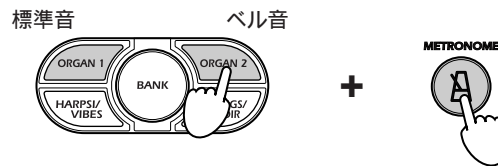
小節の最初にアクセント音が入ります。アクセント音を出さないようにするときは [METRONOME]スイッチを押したときに、点灯した拍子の[SOUND]スイッチを押して消灯させます。

MeMO [METRONOME]スイッチを押しているときは、選ばれている拍子の設定が[SOUND]スイッチの点灯で確認できます。

MeMO 電源をオフにすると拍子(アクセント音)無しの設定になります。

アクセント音をベルの音にするときは

1. [METRONOME]スイッチを押しながら、[SOUND]スイッチの[ORGAN 2]を押してください。
アクセント音はベル音になり [SOUND]スイッチの[ORGAN 2]が点灯します。



2. 標準のアクセント音に戻すときは、[METRONOME]スイッチを押しながら [SOUND]スイッチの[ORGAN 1]を押してください。
[ORGAN 1]のスイッチが点灯します。

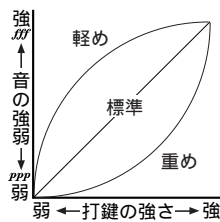
MeMO [METRONOME]スイッチを押しているときは、選ばれているアクセント音(標準、ベル)の設定が[SOUND]スイッチの点灯で確認できます。

MeMO 電源をオフにすると標準のアクセント音の設定になります。

鍵盤のタッチ感を変える

鍵盤を弾く強さによる音の強弱の変化の度合いを設定します。これをタッチ・コントロール機能といいます。電源をオンにしたときは、普通(標準)のタッチになります。

1. [TOUCH]スイッチを押しながら、[SOUND]スイッチの[E.PIANO 1](LOW)、[PIANO 1](MID)、[PIANO 2](HIGH)のいずれかを押します。
軽め、または重めが選ばれているときは[TOUCH]スイッチが点灯します。標準が選ばれたときは[TOUCH]スイッチは消灯します。



[SOUND]スイッチ	タッチ・コントロールの設定
[E.PIANO 1](LOW)	軽め(弱く弾いても強音が出せるタッチ)
[PIANO 1](MID)	標準(普通のピアノ・タッチ)
[PIANO 2](HIGH)	重め(強く弾かないと強音が出せないタッチ)

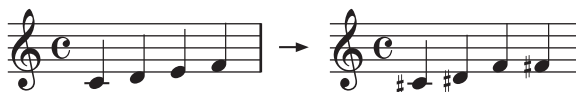
MeMO [TOUCH]スイッチを押しているときは、選ばれているタッチ・コントロールの設定が[SOUND]スイッチの点灯で確認できます。

MeMO 電源をオフにすると標準の設定に戻ります。

キーを変更する(移調)

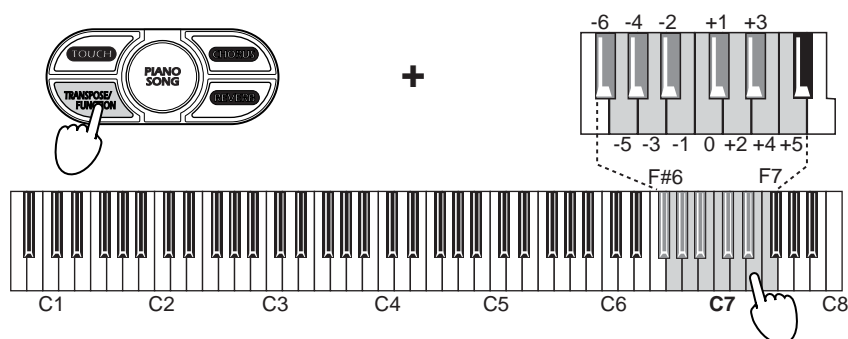
キーを変える(移調する)ことによって、黒鍵をあまり使わない指使いで演奏したり、覚えてそのままの指使いで、他の楽器や曲に演奏を合わせることができます。これをトランスポーズ機能といいます。

11半音の範囲でずらすことができます。例えば1半音上げた場合、下図の左の楽譜を弾くと、右の楽譜のように鳴ります。



1. [TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、F#6...F7の中から移調するキーの鍵盤を押します。

C7以外の鍵盤を押えると[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチが点灯し、トランスポーズされたことを示します。押さえた鍵盤の音の高さがC7の位置に対応するように、鍵盤全体の音の高さが移調します。



F#6の鍵盤 (- 6半音)
C7の鍵盤の位置で
F#6の音が鳴ります。



C7の鍵盤 (±0)
通常の状態です。



F7の鍵盤 (+ 5半音)
C7の鍵盤の位置で
F7の音が鳴ります。

2. トランスポーズを解除するときは、[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながらC7の鍵盤を押します。
このとき、[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチが消灯します。

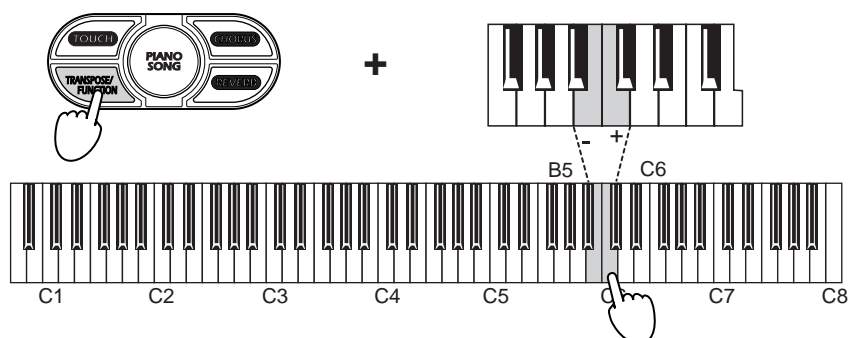
MeMO 電源をオフにするとトランスポーズは解除されます。

音の高さ(ピッチ)を調整する

音の高さ(ピッチ)の微調整を行ないます。他の楽器と合奏をするときに、楽器間の微妙なピッチのずれを調整します。

±12.5Hz(427.5Hz...452.5Hz)までずらすことができます。基準ピッチはA4=440Hzです。

1. [TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、B5またはC6の鍵盤を押します。
B5の鍵盤を押すたびに0.5Hzずつピッチが下がり、C6の鍵盤を押すたびに0.5Hzずつピッチが上がります。



鍵 盤	ピッチ
B 5	押すたびに0.5Hz下がる
B 5 + C 6	基準ピッチ(A4=440Hz)
C 6	押すたびに0.5Hz上がる

2. [TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、B5とC6の鍵盤を同時に押すと、基準ピッチに戻ります。

MeMO 電源をオフにすると、基準ピッチ(A4=440Hz)に戻ります。

音律を選ぶ

クラシック音楽には、古典的な調律法によって作曲された作品が数多く残っています。これらの曲の持つ本来の響きを再現するために、ヴェルクマイスター(Werckmeister)とキルンベルガー(Kirnberger)という古典音律と、現在鍵盤楽器で広く用いられている平均律の3種類の音律が選択できます。

1. [TOUCH]スイッチを押しながら、[SOUND]スイッチの[ORGAN 1]、または[ORGAN 2]を押します。
このとき選んだスイッチが点灯します。



2. 平均律に戻すときは、[TOUCH]スイッチを押しながら、点灯している[ORGAN 1]または[ORGAN 2]スイッチを押して両スイッチを消灯にします。
[TOUCH]スイッチを押しているときは、該当する音律の[SOUND]スイッチが点灯します。

[SOUND]スイッチ	音 律
[ORGAN 1]	ヴェルクマイスター：ドイツ人のオルガニストで音楽理論家のアンドリアス・ヴェルクマイスターによる、ヴェルクマイスターⅢスケールです。これはバロック時代後期に比較的自由的な移調を目的として考案されたものです。
[ORGAN 2]	キルンベルガー：18世紀初めに、ヨハン・フィリップ・キルンベルガーが考案したキルンベルガーⅢスケールです。これは主にハーブシコードのチューニングに使用されます。
[ORGAN 1]、[ORGAN 2] 両スイッチ共に消灯状態	平均律：現在の鍵盤楽器のほとんどすべてがこの平均律を用いています。これは半音階が均等に配列しているため、どの調に対しても均一のスケールで演奏することができます。

MeMO 電源をオフにすると、音律は平均律に戻ります。

ストレッチ・チューニングについて

ストレッチ・チューニングは、より自然な響きを得るために、平均律のピッチに対して低音域は低く、高音域は高くピッチを調整したものです。これは、アコースティック・ピアノで通常調律される方法です。


本機でストレッチ・チューニングを用いているのは以下の6つの音色です。

[SOUND]スイッチ (点灯色)	バンクA (赤)	バンクB (緑)	バンクC (オレンジ)
[PIANO 1]	グランド・ピアノ 1 Grand Piano 1	スタンダード・ピアノ Standard Piano	ホンキートンク・ピアノ Honky Tonk Piano
[PIANO 2]	グランド・ピアノ 2 Grand Piano 2	ブライツ・ピアノ Bright Piano	メロー・ピアノ Mellow Piano

演奏を録音 / 再生する(NC-500のみ)

本機のリコーダーは、テープレコーダーを操作する手軽さで鍵盤の演奏を録音、再生することができます。

録音パートは2つあります。パートごとに別の曲を録音することはもちろん、1つの曲を右手パート、左手パートに分けて録音し、2つのパートを同時に再生することもできます。録音したデータは、電源をオフにしても記憶されます。

MeMO 残しておきたい演奏データは、市販のデータファイラーやシーケンサー・ソフトウェアなどを使って保存、管理をすることができます( p.36「MIDIデータ・ダンプ」参照)。

MeMO 電源をオフにしても録音したデータは消えません。

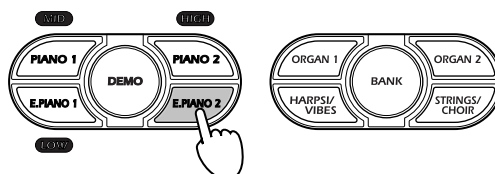


すでに録音されているパートに録音すると、データが上書きされて、以前の演奏データは消去されます。

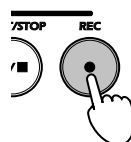
演奏を録音する

演奏を録音するときは

1. [SOUND]スイッチを押して、録音時の音色を選びます。

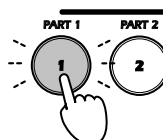


2. [REC]スイッチを押します。
[REC]スイッチが点灯します。



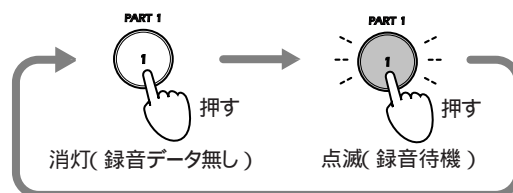
[PART 1]、[PART 2]スイッチの点灯、消灯または点滅で、パートの録音状態を確認してください。録音されているパートは、スイッチが点灯します。

3. 録音するパートを選び、そのスイッチを押して点滅にします。
シングル・モードで録音するときは、1つのパート・スイッチを選びます。レイヤー・モードで録音するときは、両方のパート・スイッチを選びます。各パートには、それぞれ選んだ音色で録音されます。

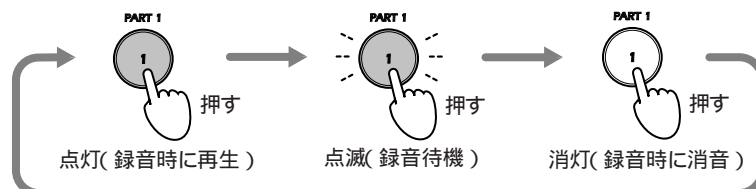


点滅は録音待機の状態です。スイッチを何度か押すと、スイッチの点灯が次ページのように切り替わります。

録音データがないパート



録音データがあるパート



- ⚠ シングル・モードのときは2つのパートを同時に録音待機の状態に設定できません。
- ⚠ 録音データの有無に関わらず他のパート・スイッチを押すと、そのパートが録音待機状態になります。

4. [START/STOP]スイッチ、鍵盤、または3つのペダルのうちいずれかを押すと、録音が始まります。また、ここで[SOUND]スイッチを押して再び音色を選びなおしても録音が始まります。

[START/STOP]スイッチを押した場合は、2小節のカウントの後に録音が始まります。他は、押すと同時に録音が始まります。また、3.で選択したパートと同じMIDIチャンネルのMIDIメッセージを受信(p.31)しても録音が始まります。



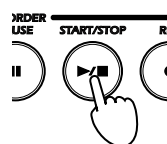
録音中は[START/STOP]スイッチが拍子に合わせて点滅します。

録音中は[SOUND]スイッチを押して音色を切り替えることもできます。音色を切り替えながら録音すると、音色の切り替えもデータとして記録され、再生するときに音色が切り替わります。

レイヤー・モードのとき、ペダルを使用すると両方の音色に効果がかかります。また、メトロノームを鳴らしながら(p.20) テンポに合わせて録音することができます。

5. [START/STOP]スイッチを押します。

録音が終了し、点滅していた[START/STOP]スイッチが消灯します。このとき自動的に録音データが本機のメモリーへ保存されます。保存が終わると、自動的に最初の小節に戻ります。



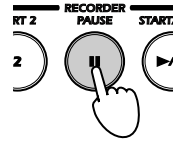
MeMO 録音中に、録音可能な領域がメモリーの10パーセント以下になると、[REC]スイッチが点滅します。10パーセント以下とは、1つのパート内の録音できる音数が1,040未満になったとき、または録音した小節が900小節(最大999小節録音可)を越えたことをいいます。


- ⚠ 録音中は絶対に電源をオフにしないでください。録音したデータが消えてしまうことがあります。

録音中に一時停止するときは

録音中に一時停止することができます。少しずつ録音するときなどに便利です。

1. 録音中に[PAUSE]スイッチを押します。
[PAUSE]スイッチが点灯し、[START/STOP]スイッチは点滅します。



2. 録音を再開するときは、[REC]スイッチを押してから録音するパートのスイッチを押して点滅にします。
録音待機状態になります。
3. [START/STOP]スイッチ、[PAUSE]スイッチ、鍵盤、または3つのペダルのうちいずれかを押すと、録音が始まります。また、ここで[SOUND]スイッチを押して再び音色を選びなおしても録音が始まります。
[START/STOP]スイッチまたは[PAUSE]スイッチを押した場合は、2小節のカウントの後に録音が始まります。他は、押すと同時に録音が始まります。また、2.で選択したパートと同じMIDIチャンネルのMIDIメッセージを受信( p.31)しても録音が始まります。



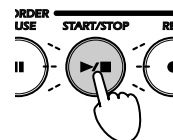
一時停止後に録音を再開する場合、つなぎめがきれいに録音されないことがあります。この機能を使うときは、一時停止前はメトロノームを鳴らしながら録音し、演奏の音が止まったところで拍に合わせて一時停止することをお勧めします。なお、録音を再開すると、停止した拍からスタートします。


録音した曲を聴く

録音した曲を再生するときは

1. [PART 1]、[PART 2]スイッチの点灯、消灯または点滅で、パートの録音状態を確認してください。
録音データがないときは、パート・スイッチは点灯しません。録音されているときは、パート・スイッチが点灯します。
再生しないパートは、そのスイッチを押して消灯にします。

2. [START/STOP]スイッチを押すと、再生が始まります。



再生時は、ランプが拍子に合わせて点滅します。1拍目は長めに(1/8)、その他の拍は短く(1/16)点滅します。再生中は[TEMPO]ツマミで、再生するテンポを変えることができます( p.16)

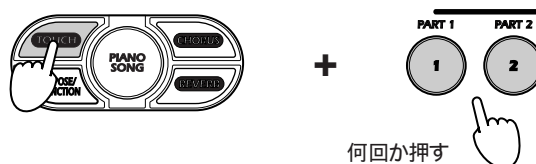
3. 再生を終えるときは、[START/STOP]スイッチを押します。
再生が終わり、自動的に最初の小節に戻ります。もう一度[START/STOP]スイッチを押すとその曲の最初から演奏します。
また、再生中に[PAUSE]スイッチを押すと([PAUSE]スイッチが点灯)、演奏を一時停止することができます。もう一度[PAUSE]スイッチを押すと一時停止したところから演奏を開始します。



録音したデータをすべて再生し終わると、自動的に最初の小節に戻り停止して[START/STOP]スイッチは消灯します。

2つのパートの音量バランスを変えるときは

1. パート1とパート2を同時に再生しているときに、[TOUCH]スイッチを押しながら、音量を大きくするパートのスイッチ([PART 1]または[PART 2]スイッチ)を何回か押します。



2. もとに戻すときは、[TOUCH]スイッチを押しながら、[PART 1]スイッチと[PART 2]スイッチを同時に押してください。


演奏を繰り返して再生するときは



録音した曲全体を、繰り返して演奏させることができます。

1. 演奏中に[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押します。
[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチが点滅し、演奏を繰り返します。
2. 演奏を停止するときは、[START/STOP]スイッチを押します。
このとき、[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチが消灯し、演奏の繰り返しも解除されます。

録音したデータを編集する

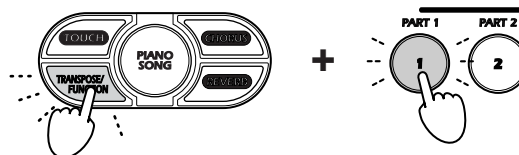
録音したデータの途中から録音し直したり、録音したデータの最後から演奏を追加録音することができます。

 追加録音するときは録音したデータがない位置から録音をすることはできません。録音されているデータの範囲内から録音を開始してください。

1. [START/STOP]スイッチを押します。
録音したデータが再生されます( p.28「録音した曲を聴く」参照)。
2. 録音したいところきたら[PAUSE]スイッチを押します。
曲が一時停止し、[PAUSE]スイッチが点灯します。
3. [REC]スイッチを押します。
[REC]スイッチが点灯します。
4. 録音するパートを選び、そのスイッチを押して点滅にします。
録音待機状態になります。
5. [START/STOP]スイッチ、[PAUSE]スイッチ、鍵盤、または3つのペダルのうちいずれかを押すと、録音が始まります。また、ここで[SOUND]スイッチを押して再び音色を選びなおしても録音が始まります。
[START/STOP]スイッチまたは[PAUSE]スイッチを押した場合は、2小節のカウントの後に録音が始まります。他は、押すと同時に録音が始まります。また、4.で選択したパートと同じMIDIチャンネルのMIDIメッセージを受信( p.31)しても録音が始まります。
6. [START/STOP]スイッチを押します。
録音が終了し、点滅していた[START/STOP]スイッチが消灯します。このとき自動的に録音データが本機のメモリーへ保存されます。保存が終わると、自動的に最初の小節に戻ります。

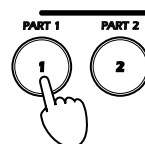
演奏データを消去する


1. 演奏の停止時に、[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、データを消すパートのスイッチを押します。
[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチと選んだパートのスイッチが点滅し、演奏データ消去の待機状態になります。



演奏データ消去の待機状態を解除するときは、ここで[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押します。

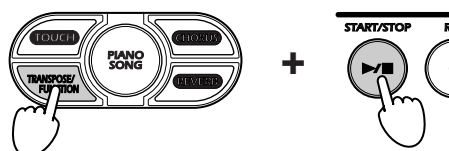
2. 1.で押したパートのスイッチを再び押します。
演奏データは消去され、点滅していたスイッチが消灯します。



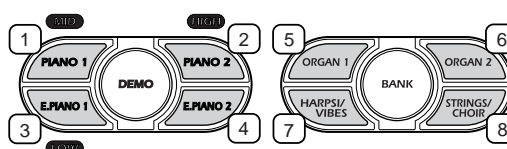
MeMO 残しておきたい演奏データは、市販のデータファイラーやシーケンサー・ソフトウェアを使って演奏データを保存、管理することをお勧めします( p.36「MIDIデータ・ダンプ」参照)。

録音したデータ量を確認する

1. 確認したい方のパートスイッチを点灯させた状態で、[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチと[START/STOP]スイッチを同時に押し続けます。



録音した演奏のデータ量が、[SOUND]スイッチの点灯数で表示されます。データ量が大きくなると下図の数字の順で、スイッチの点灯数が多くなります。



MeMO 録音中に録音できるメモリ容量が残り10パーセント未満になると、[REC]スイッチが点滅し始めます。メモリがいっぱいになった時点で録音は自動的に止まり、通常の演奏できる状態に戻ります。このとき、録音したパート・スイッチが点灯しています。

MeMO 両パート・スイッチとも点灯あるいは消灯している場合、パート1の状態が表示されます

MIDI

MIDI(ミディ)とは?

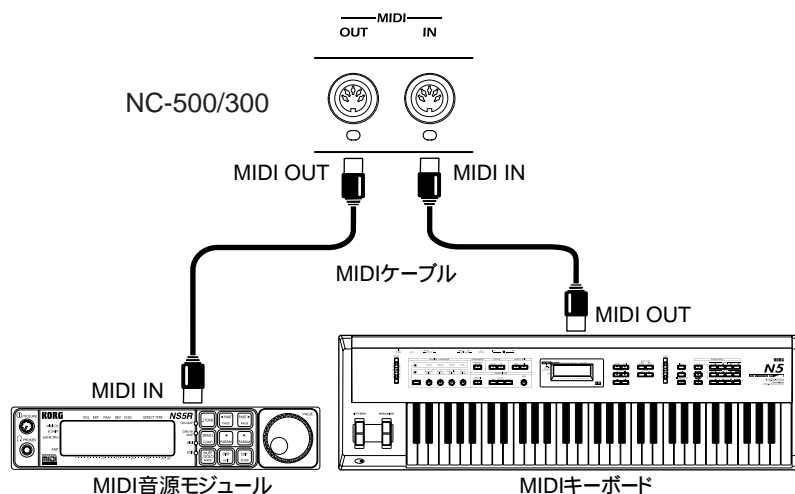
MIDI(Musical Instrument Digital Interface)は、電子楽器やコンピュータの間で、演奏に関するさまざまな情報をやりとりするための世界共通の規格です。

MIDIでなにができるの？

MIDIを利用すると本機から他のMIDI機器をコントロールしたり、他のMIDI機器から本機の音源を鳴らしたりすることができます。また、シーケンサーや複数のMIDI機器を組み合わせることで、複雑なアンサンブルを楽しむこともできます。

MIDIの接続

MIDI情報をやりとりするには、MIDIケーブル(別売)を使います。このケーブルを、本機のMIDI端子と情報をやりとりする外部MIDI機器のMIDI端子に接続します。このMIDI端子は2種類あります。



- | | |
|----------|---|
| MIDI IN | MIDI情報を受信します。外部MIDI機器(MIDIキ - ボ - ドやシ - ケンサ - など)で、本機の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本機のMIDI IN端子と外部MIDI機器のMIDI OUT端子をMIDIケーブルで接続します。 |
| MIDI OUT | MIDI情報を送信します。本機の鍵盤を弾いたときに出力されるMIDI情報で、外部MIDI機器の音を鳴らすなどのコントロールをすることができます。本機のMIDI OUT端子と外部MIDI機器のMIDI IN端子をMIDIケーブルで接続します。 |

MIDIの基本設定

電源をオンにしたときは、本機のMIDIパラメータは下記の設定になっています。

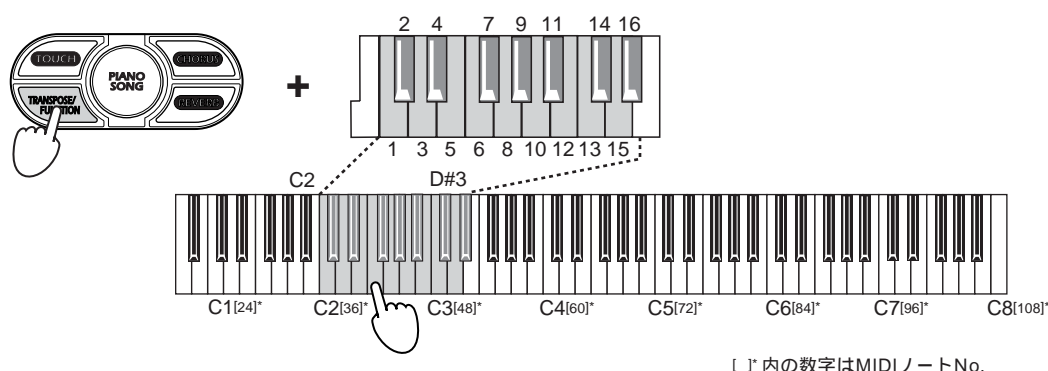
パラメータ	設 定
送信チャンネル	1
受信チャンネル	1...16
ローカル	オン
オムニ	オフ

MIDIチャンネルの変更

MIDIには、データのやりとりが可能な16のチャンネルがあります。本機とデータのやりとりをするには、どのチャンネルでデータを送受信するかを選ぶ必要があります。

電源をオンした直後は、自動的にチャンネル1が設定されます。

1. MIDIチャンネルを設定するときは、[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、選ぶチャンネルが割り当てられた鍵盤C2...D#3の1つを押します。



[*]内の数字はMIDIノートNo.

MeMO レイヤー・モードのとき、プログラム番号(p.34「プログラムチェンジ・ナンバー、音色対応表」参照)の大きい音色は上で設定したチャンネル+1に設定されます。また、レコーダーのパート1は+2、パート2は+3に設定されます。

MIDIチャンネル対応表

鍵盤	シングル	レイヤー	パート1	パート2
C2	1	2	3	4
C#2	2	3	4	5
D2	3	4	5	6
D#2	4	5	6	7
E2	5	6	7	8
F2	6	7	8	9
F#2	7	8	9	10
G2	8	9	10	11
G#2	9	10	11	12
A2	10	11	12	13
A#2	11	12	13	14
B2	12	13	14	15
C3	13	14	15	16
C#3	14	15	16	1
D3	15	16	1	2
D#3	16	1	2	3

マルチティンバー音源として本機を使う

本機は、内蔵音源を外部MIDI機器からコントロールして鳴らすことができる、16パート・マルチティンバー音源として動作することができます。

1. 本機のMIDI INとシーケンサーなどのMIDI OUTを、MIDIケーブルで接続します。
2. 接続したシーケンサーなどからMIDIデータを送信します。
接続するシーケンサーなどからの送信方法は、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

演奏データと一緒にプログラムチェンジ・メッセージを受信すると、そのプログラムナンバーに対応する本機の音色で演奏されます。ただし、プログラムチェンジの設定がイネーブルになっているときに限ります。

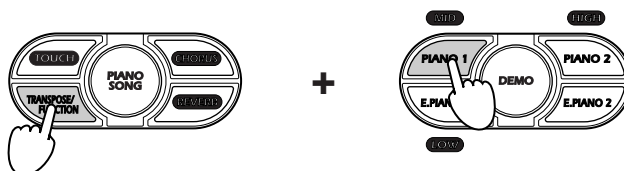
ローカル・オン / オフ

ローカル・オンでは、本機の鍵盤を弾くと演奏の音が鳴り、同時にMIDIデータを送信します。ローカル・オフでは、本機を弾いても演奏の音は鳴らず、データだけを送信します。通常はローカル・オンに設定します。

本機をマスター・キーボードとして使用する場合、たとえば本機を接続したMIDI機器(キーボード、音源モジュールなど)の音色で演奏するときは、本機をローカル・オフに設定します。本機は鳴りませんが、接続したMIDI機器の音色で演奏されます。

また、本機を音源として使用する場合、たとえば本機をシーケンサーと接続して、シーケンサー側でエコーバック(シーケンサーが受信したデータを送り返す動作)を設定していて、戻ってきたデータで二重に鳴るのを防ぐときは、ローカル・オフに設定します。

1. [TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、[SOUND]スイッチの[PIANO 1]を押してください。



押すたびにローカル・オンとローカル・オフが切り替わります。

ローカルの設定	[PIANO 1]スイッチ
ローカル・オン	点 灯
ローカル・オフ	消 灯

MeMO 電源をオフにすると、設定はローカル・オンに戻ります。

プログラムチェンジ

接続したMIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えたり、接続したMIDI機器から、本機のプログラム番号を切り替えます。

プログラムチェンジの送信

接続した外部MIDI機器のプログラム番号を、本機から切り替えます。

1. [SOUND]スイッチと[BANK]スイッチで音色を選ぶと、下の表のように0...23のMIDIプログラムチェンジ・ナンバーを送信します。

プログラムチェンジの受信

外部からMIDIプログラムチェンジ・ナンバーを受信すると、下の表のように本機の音色が切り替わります。本機は、0...23のプログラムチェンジ・ナンバーを受信したときに音色が切り替わります。

外部MIDI機器より24以上のプログラムチェンジ・ナンバーを受信しても、本機の音色は切り替わりません。

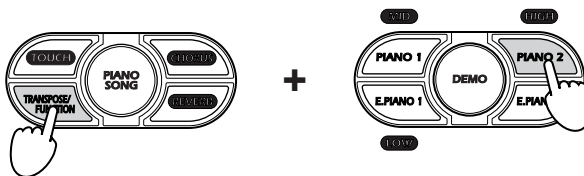
プログラムチェンジ・ナンバー、音色対応表

PC#	[SOUND]スイッチ	バンク	音 色
0	[PIANO 1]	A	Grand Piano 1
1		B	Standard Piano
2		C	Honky Tonk Piano
3	[PIANO 2]	A	Grand Piano 2
4		B	Bright Piano
5		C	Mellow Piano
6	[E.PIANO 1]	A	E.Piano 1
7		B	Soft E.P.
8		C	Clavi
9	[E.PIANO 2]	A	E.Piano 2
10		B	Vintage E.P.
11		C	E.P.Pad
12	[ORGAN 1]	A	Jazz Organ 1
13		B	Jazz Organ 2
14		C	Jazz Organ 3
15	[ORGAN 2]	A	Church Organ 1
16		B	Church Organ 2
17		C	Church Organ 3
18	[HARPSI/VIBE]	A	Harpsichord 1
19		B	Harpsichord 2
20		C	Vibraphone
21	[STRINGS/CHOIR]	A	Strings
22		B	Slow Strings
23		C	Choir

プログラムチェンジのイネーブル/キャンセル

プログラムチェンジの情報を送受信するときはイネーブルに、送受信しないときはキャンセルに設定します。

1. [TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、[SOUND]スイッチの[PIANO 2]を押してください。



押すたびにプログラムチェンジのイネーブルとキャンセルが切り替わります。

設 定	[PIANO 2]スイッチ
イネーブル	点 灯
キャンセル	消 灯

MeMO 電源をオフにすると、イネーブルの設定に戻ります。

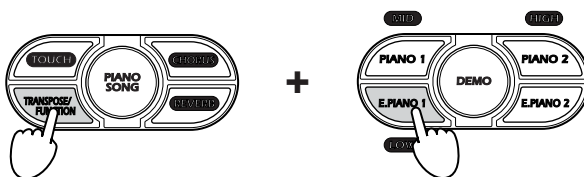
コントロールチェンジ

本機のダンパー・ペダルなどの情報を接続した外部MIDI機器に送信してコントロールしたり、外部MIDI機器からこれらの情報を受信して本機をコントロールします。

コントロールチェンジのイネーブル/キャンセル

コントロールチェンジの情報を送受信するときはイネーブルに、送受信しないときはキャンセルに設定します。

1. [TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、[SOUND]スイッチの[E.PIANO 1]を押してください。




押すたびにコントロールチェンジのイネーブルとキャンセルが切り替わります。

設 定	[E.PIANO 1]スイッチ
イネーブル	点 灯
キャンセル	消 灯

MeMO 電源をオフにすると、イネーブルの設定に戻ります。

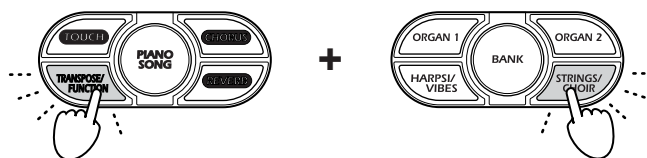
MIDIデータ・ダンプ(NC-500のみ)

本機ではレコーダーの演奏データを外部のMIDIデータファイラー(記憶装置)などに保存し、必要なときに本機に読み込み、設定を再現することができます。

 使用するデータファイラーなどの取扱説明書をよく読んで、データを消してしまわないように十分注意してください。


データを保存する


1. 本機のMIDI OUTと使用するデータファイラーなどのMIDI INをMIDIケーブルで接続します。
2. データファイラーなどを操作して、本機からのMIDIデータを受信待ちの状態に設定します。
3. [TRANPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら、[SOUND]スイッチの[STRINGS/CHOIR]を押します。



それぞれのスイッチが点滅し、データ・ダンプ送信待ちの状態になります。
データ・ダンプを始める前にキャンセルするときは、[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチか[SOUND]スイッチの[STRINGS/CHOIR]を押します。

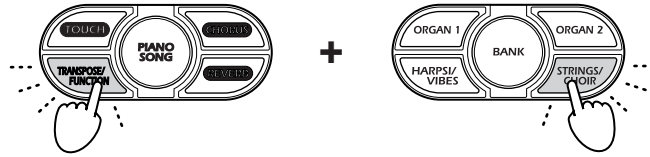
4. [TOUCH]スイッチを押します。
データ・ダンプが始まり、演奏データがデータファイラーなど保存先に送信されます。
データの送信が終了すると、3.で点滅していた[TRANPOSE/FUNCTION]スイッチと[SOUND]スイッチの[STRINGS/CHOIR]は消灯し、通常の演奏ができる状態に戻ります。

 データ送信中は本体のスイッチに触れないでください。

 データ・ダンプ送信待ちの状態やお使いになるデータファイラーなどにデータを送信している間は本機から音は出ません。

保存したデータを読み込む

1. 本機のMIDI INと使用するデータファイラーなどのMIDI OUTをMIDIケーブルで接続します。
2. [TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[SOUND]スイッチの[STRINGS/CHOIR]を押します。



それぞれのスイッチが点滅し、データ・ダンプ受信待ちの状態になります。

データ・ダンプを始める前にキャンセルするときは、[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチか[SOUND]スイッチの[STRINGS/CHOIR]を押します。

3. 使用するデータファイラーなどを操作して、あらかじめ保存しておいた本機のデータを送信します。
データの送信については、お使いになるデータファイラーなどの取扱説明書をご覧ください。
4. 本機がデータを受信します。
データの受信が終了すると、2.で点滅していた[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチと[SOUND]スイッチの[STRINGS/CHOIR]は消灯し、通常の演奏ができる状態に戻ります。



データ受信中は本体のスイッチに触れないでください。



データ・ダンプ受信待ちの状態や、データファイラーなどからデータを受信している間は、本機から音は出ません。

USB(NC-500のみ)

USBとは?

Universal Serial Busの略で、コンピューターと周辺機器でデータをやりとりするためのインターフェイスです。

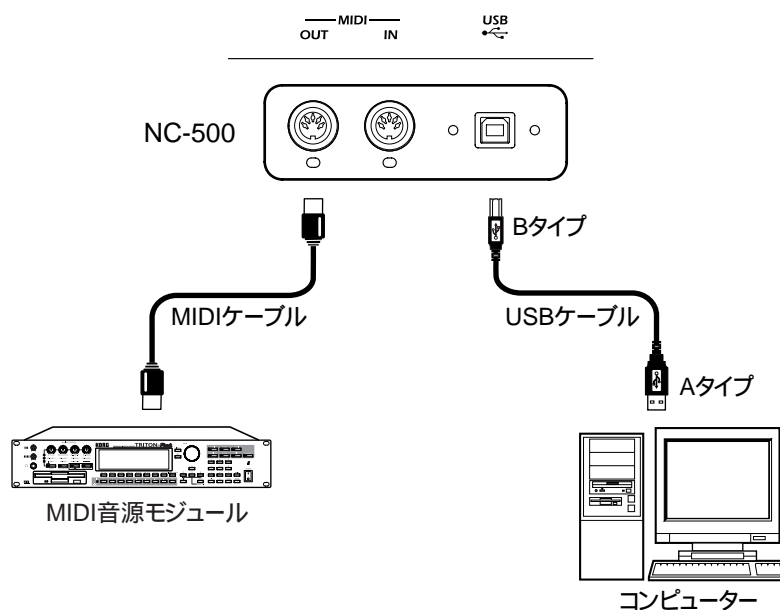
NC-500は、USB端子を搭載しています。直接コンピューターと接続することにより、大切な演奏データをコンピューターに保存したり、コンピューターから読み込んだりできます。また、シーケンサー・ソフトウェアを使いNC-500を演奏させたり、NC-500の演奏をコンピューターに録音することもできます。

演奏データは本機独自のフォーマットです。オーディオ・データとしてコンピューターなどNC-500以外で再生や編集することはできません。再生するためには本機にリストアをしてください。

本機に外部ハードディスク、CD-R/RWDドライブなどのUSB周辺機器を接続することはできません。

USBの接続

USBケーブルでNC-500とコンピューターを接続します。市販のUSBケーブルを用意してください。用意するケーブルは片方がAタイプ、もう片方がBタイプのオスのソケットになっているものです。USB接続の場合は、コンピューターの電源を入れたままで接続が可能です。NC-500のUSB端子にUSBコネクタを接続します。コンピューターのUSB端子にもう片方のUSBコネクタを接続します。

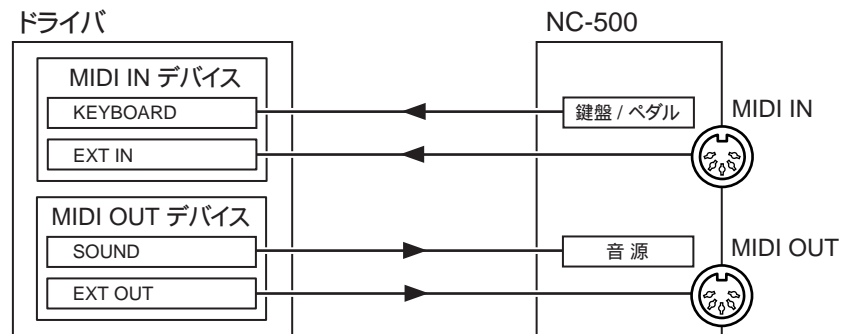


MeMO NC-500はUSB MIDIインターフェイスとしても使用できます。MIDI OUT端子にMIDI音源などを接続すると、そのままコンピューターとMIDI音源とのやり取りも行えます。

USB接続時には、MIDI OUT端子からはUSBからのデータを送信します。鍵盤などのNC-500が送信するMIDIメッセージは、MIDI OUT端子からは出力されません。

NC-500 とドライバのポートについて

NC-500 の USB MIDI は、ドライバ(コンピューター)側から見ると 2-IN / 2-OUT になります。



MIDI IN デバイス

KEYBOARD

NC-500 の各コントローラーからの MIDI メッセージが入力されます。
コンピューターのアプリケーションを NC-500 で操作したい場合に、アプリケーションのリモートコントロールの MIDI 入力設定でこのポートを選択してください。

EXT IN

NC-500 の MIDI IN 端子に入力された MIDI メッセージをこのポートに出力します。外部シーケンサーの MIDI メッセージをコンピューターのアプリケーションに送信したいときなど、NC-500 を USB MIDI インターフェイスとして使用する場合に、アプリケーションの MIDI 入力設定でこのポートを選択してください。

MIDI OUT デバイス

SOUND

ソフトウェアで出力した MIDI メッセージを NC-500 の音源に送信します。

EXT OUT

ソフトウェアが出力した MIDI メッセージをそのまま NC-500 の MIDI OUT 端子へ送信します。

コンピューターのアプリケーションの MIDI メッセージを外部機器に送信したいなど、NC-500 を USB MIDI インターフェイスとして使用する場合に、アプリケーションの MIDI 入力設定でこのポートを選択してください。

NC-500 の MIDI 端子について

USB 接続されていないとき

MIDI IN 端子

通常 MIDI メッセージを NC-500 の音源に送信します。

MIDI OUT 端子

NC-500 の鍵盤などのコントローラーの MIDI メッセージを送信します。

USB 接続されているとき

MIDI IN 端子

受信した内容をそのまま EXT IN へ送ります。

MIDI OUT 端子




EXT OUT から出力した内容をそのまま送信します。NC-500 の各コントローラーからのメッセージは送信しません。

USB-MIDIドライバのインストールと設定




Windows XPをお使いの場合

OSにWindows XPを使用したコンピューターには、付属のKORG USB-MIDI Driver for Windows XPを使うことができます。

NC-500を初めてコンピューターのUSBポートに接続すると、自動的にWindows標準のUSB-MIDIドライバがインストールされます。KORG USB-MIDI Driver for Windows XPを使用するときは、以下の手順でドライバをインストールしなおしてください。

-  本製品のソフトウェアの使用許諾契約が別途に付属されています。ソフトウェアをインストールする前に、必ずこの使用許諾契約をお読みください。ソフトウェアをインストールすると、この契約に同意したことになります。
-  付属のCD-ROMは、一般オーディオ用プレイヤーでは絶対に再生しないでください。スピーカーを破損する恐れがあります。またヘッドホンをご使用になる場合、大音量によって耳に障害を被ることがあります。
-  KORG USB-MIDI Driver for Windows XPはWindows XP専用です。Windows 95/98/Me/2000では使用できません。

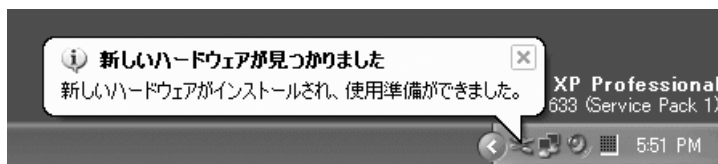
KORG USB-MIDI Driver for Windows XPのインストール


-  制限付きアカウントでログオンしている場合は、Windows XPへのドライバをインストールおよびアンインストールできません。コンピューターの管理者グループに属するユーザーでログオンするか、管理者に相談してください。
-  デジタル署名によるドライバのインストールの抑制を行なわないようにしておいてください（「p.45「デジタル署名の認証によるドライバのインストールの抑制を回避するには」参照」）。
-  ドライバのインストールはUSBのポートごとに必要です。KORG USB-MIDI Driver for Windows XPをインストールしたときとは異なる別のUSBポートにNC-500を接続して使用する場合は、同様の手順で新たにKORG USB-MIDI Driver for Windows XPをインストールしなおしてください。

1. NC-500の電源を入れて、NC-500とPCをUSBケーブルで接続します。
WindowsがNC-500の接続を認識します。



そして、標準のドライバが自動的にインストールされます。



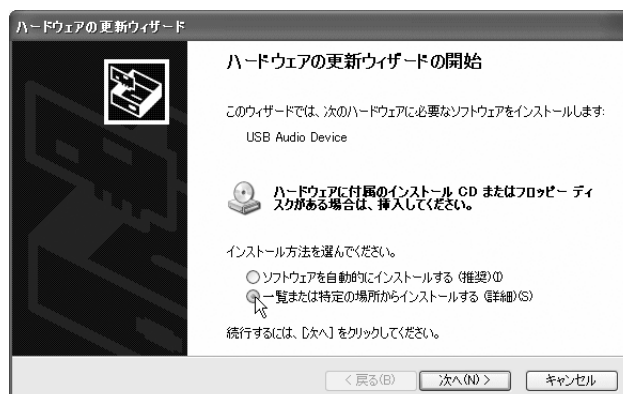
-  Windows XPへのドライバのインストールおよびアンインストールを行なうためにはAdministratorの管理者権限が必要です。詳しくはシステム管理者に相談してください。
2. タスクバーの[スタート]ボタン、[コントロール パネル]の順にクリックし、コントロールパネルを表示させます。コントロールパネルの中の[サウンドとオーディオデバイス]を起動し、[ハードウェア]タブをクリックします。デバイスのリストから[USB Audio Device]を選択し、リスト下の「デバイスのプロパティ」の項目の「場所」にKORG DIGITAL PIANOが表示されていることを確認し、[プロパティ...]ボタンをクリックします。



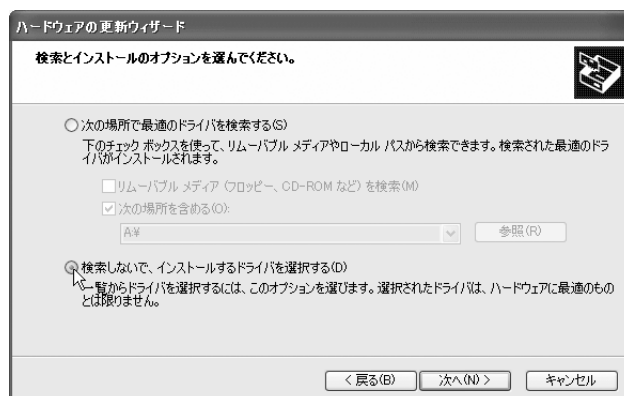
3. 「USB Audio Deviceのプロパティ」ダイアログが表示されるので、[ドライバ]タブをクリックし、[ドライバの更新...]ボタンをクリックします。



4. 「ハードウェアの更新ウィザード」が表示されます。
「インストール方法を選んでください。」では“一覧または特定の場所からインストールする”をクリックし、[次へ >]をクリックします。



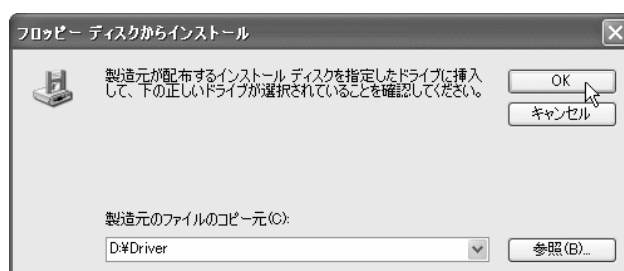
5. “ 検索とインストールのオプションの選択 ”では、必ず「 検索しないで、インストールするドライバを選択する 」をクリックし、[次へ >]をクリックします。



6. “ このハードウェアのためにインストールするデバイスドライバを選んでください。 ”と表示されるので、[ディスク使用]ボタンをクリックします。

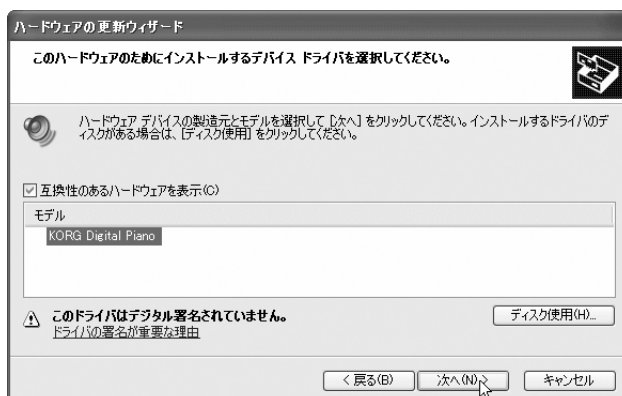


7. フォルダ名を求めてくるので、NC-500付属のCD-ROMをCD-ROMドライブに挿入し、KORG USB-MIDI Driver for Windows XP の入っているフォルダ“ D: ¥Driver ”を入力し[OK]ボタンをクリックします。



ただし、これはCD-ROMドライブがDドライブの場合であり、お使いのコンピューターの環境に合わせて、CD-ROMドライブがEドライブの場合には上記フォルダ名の“ D: ”を“ E: ”のように変更して入力してください。

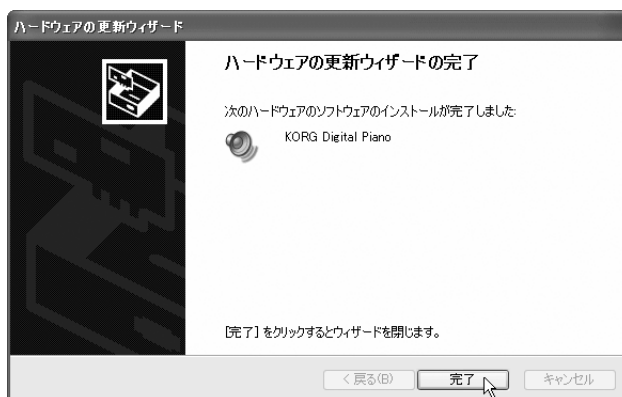
8. モデルにKORG Digital Pianoが表示されていることを確認し[次へ >]をクリックするとドライバのインストールが始まります。



9. 途中デジタル署名認証の警告ダイアログが表示される場合がありますが、[続行]をクリックして先に進めます。



10. インストール完了のダイアログが表示されるので[完了]をクリックします。Windowsの再起動を求められた場合には、[はい]を選んで再起動させてください。



KORG USB-MIDI Driver for Windows XP のアンインストール

1. タスクバーの[スタート]ボタンをクリックして、[コントロール パネル]をクリックして表示させます。
コントロール パネルの中の[サウンドとオーディオデバイス]を起動し、[ハードウェア]タブをクリックします。
デバイスのリストからKORG Digital Pianoを選択し、[プロパティ...]ボタンをクリックします。



2. 「KORG Digital Pianoのプロパティ」ダイアログが表示されるので、[ドライバ]タブをクリックし、[削除]ボタンをクリックします。



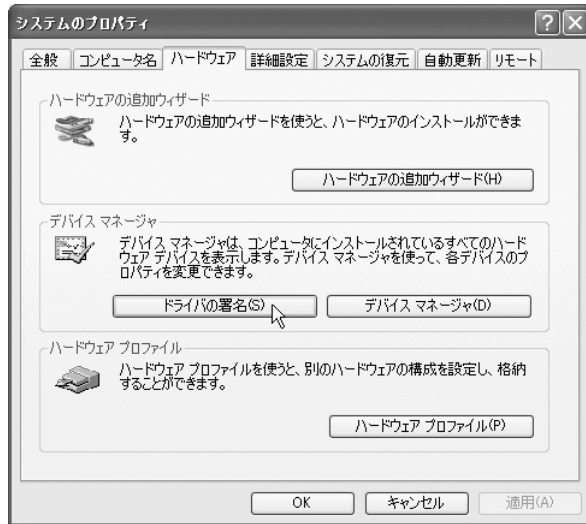
3. 確認のダイアログが表示されるので、[OK]ボタンをクリックします。



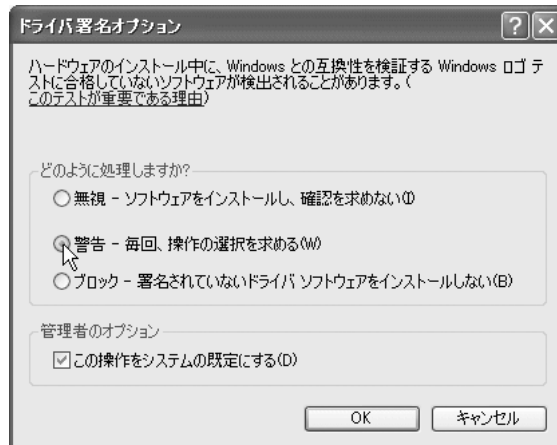
デジタル署名の認証によるドライバのインストールの抑制を回避するには

お使いのコンピューターが、デジタル署名の無いドライバをインストールできないように設定されている場合は、KORG USB-MIDI Driver for Windows XPをインストールすることができません。以下の方法でドライバをインストールできるように設定を変更してください。

1. タスクバーの[スタート]ボタン、[コントロール パネル]の順にクリックしてコントロール パネル表示させます。
コントロール パネルの中の[システム]を起動し、[ハードウェア]タブをクリックします。
そして、[ドライバの署名]ボタンをクリックします。




2. “どのように処理しますか？”で[ブロック]が選択されていると、ドライバをインストールすることができません。[無視]または[警告]を選び、[OK]をクリックします。
必要があれば、ドライバをインストール後、この設定を元に戻してください。



Mac OS Xをお使いの場合


お使いのコンピューターがMac OS Xの場合は、Mac OS X標準のMIDIドライバを使用します。

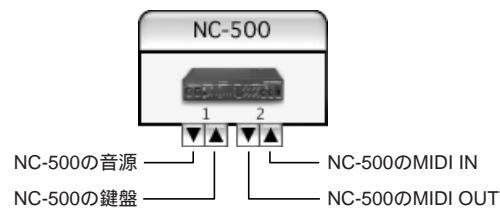
 Mac OS X 10.2以降で有効です。

1. NC-500とコンピューターをUSBケーブルで接続します。
2. NC-500の電源を入れます。
3. アプリケーション・フォルダ ユーティリティ・フォルダの中の“ Audio MIDI設定 ”をダブルクリックして開きます。
4. “ MIDI装置 ”タブをクリックして、NC-500が表示されていることを確認します。



Mac OS X標準のMIDIドライバのポートについて

ドライバ側(コンピューター側)のポート1、ポート2は、NC-500のKEYBOARD(鍵盤)、SOUND(音源)、MIDI IN/OUTに対応しています( p.39「NC-500とドライバのポートについて」参照)。



アプリケーション側の入力ポートの設定



NC-500でDAWなどのアプリケーションをコントロールする場合、NC-500の鍵盤からMIDIメッセージを受信するには、アプリケーション側の入力ポートをポート1(Port 1)に設定します。

NC-500での呼称名		アプリケーションでの表示名
入力	KEYBOARD	(MIDI入力設定に表示される)Port 1
	EXT IN	(MIDI入力設定に表示される)Port 2
出力	SOUND	(MIDI出力設定に表示される)Port 1
	EXT OUT	(MIDI出力設定に表示される)Port 2




故障とお思いになる前に

ご使用中に問題が起こった場合は次の事項を確認してください。それでも本製品が正しく動作しない場合は、サービスセンターへお問い合わせください。




電源が入らない

- ❑ ACコードが正しく本機とコンセントに接続されていることを確認してください。( p.51、53)
- ❑ [POWER]スイッチがオンになっているか確認してください。( p.9)

音が出ない

- ❑ 本機のボリュームが“ 0 ”になっていないか確認してください。“ 0 ”になっていたら、適切なレベルまでボリュームをあげてください。( p.10)
- ❑ スピーカーから音が出ない場合は、ヘッドホン端子にプラグが差し込まれていないか確認してください。( p.10)
- ❑ MIDIのローカル・コントロールがオフになっていないか確認してください。ローカル・コントロールが“ オフ ”ならば、“ オン ”にしてください。( p.33)

NC-500 の場合

- ❑ 選んでいるパートが再生されるように設定しているか確認してください。( p.28)
- ❑ 選んでいるパートに演奏データが録音されているか確認してください。( p.28)
- ❑ [SPEAKER]スイッチがオフになっていないか確認してください。( p.8)


音が途切れる

- ❑ 最大同時発音数を越えています。次ページの「最大発音数について」をごらんください。



特定の音域でピアノ音色の音程、音質がおかしい

- ❑ 本機のピアノ音色では、ピアノ本体の音をできるかぎり忠実に再現しようと加工してつくられています。その結果、音域により倍音が強調されて聞こえるなど、音程や音質が異質に感じる場合がありますが、製品の不良ではありません。


録音できない(NC-500 の場合)


- ❑ レコーダーの空き領域が十分あるか確認してください。( p.30)

送信したMIDIデータに外部機器が応答しない




- ❑ MIDIケーブルがすべて正しく接続されていることを確認してください。( p.31)
- ❑ 外部機器と同じチャンネルで、MIDIデータが送信していることを確認してください。( p.32)

USB-MIDI Driver for Windows XPがインストールできない(NC-500 でWindows XPをお使いの場合)

- ❑ USBケーブルが正しく接続されているか確認してください。( p.38)
- ❑ CD-ROMがCDドライブに正しく入っているか確認してください。
- ❑ CDドライブのレンズが汚れていませんか？市販のレンズ・クリーナーでクリーニングしてください。
- ❑ ネットワークのCDドライブからインストールしていませんか？ネットワークで接続されているCDドライブからはインストールできません。
- ❑ USBが使用可能になっているか確認してください。Windows XPの場合、[コントロール パネル]の[システム]、[ハードウェア]タブ、[デバイス マネージャ]でユニバーサル シリアル バスコントロール、USB ルートハブを確認してください。

- ❑ 不明なデバイスとして認識されていませんか？Windows XPの場合、[コントロールパネル]の[システム]、[ハードウェア]タブ、[デバイス マネージャ]で確認します。正しく認識されない場合は、NC-500が「その他のデバイス」の中に表示されたり、「不明なデバイス」と表示されます。USBケーブルを再接続し、新たに「不明なデバイス」と表示された場合は、NC-500が不明なデバイスとして認識されています。表示された「不明なデバイス」を削除し、ドライバをインストールし直してください。( p.40)

ソフトウェアが反応しない

- ❑ USBケーブルが正しく接続されているか確認してください。( p.38)
- ❑ ドライバをインストールしましたか？
- ❑ 接続したコンピューターにNC-500が認識されているか確認してください。
Windows XPの場合は、コントロールパネルの「サウンドとオーディオデバイスのプロパティ」、ハードウェアで確認してください。
Mac OS Xの場合は、Macintosh HD アプリケーション・フォルダー ユーティリティ・フォルダー “Audio MIDI設定”の“MIDI装置”タブ・ページでNC-500が認識されているかを確認してください。
-  ご使用になるコンピューターのハードウェア環境によっては、USB接続で本機を認識できないことがあります。
- ❑ NC-500のアサイン設定とUSB MIDIポートの設定を確認してください。( p.46)
- ❑ 接続している機器やソフトウェアが、NC500の機能に対応していない場合があります。接続している機器またはソフトウェアの取扱説明書を参照し、確認してください。


最大発音数について

本機は前に鳴っている音を消して、後で押さえた音を優先的にならす仕組みになっているため、最大同時発音数を越えると音が切れてしまいます。本機の音色の中には1つの音色でも2つ以上のオシレーター(音源回路の1音分)から、構成されている音色もあります。オシレーターが1つから構成されている[HARPSI/VIBES]などの音色は最大同時発音数が60音です。オシレーターが2つから構成されている[PIANO 1]のバンクA (Grand Piano 1)や[PIANO 2]のバンクA(Grand Piano 2)などの音色は最大同時発音数が30音です。また、エフェクトを使用したときは、発音数がリバーブで10音、コーラスで3音ほど少なくなります。それぞれ、音色やエフェクトの組み合わせによって使用可能最大発音数は下記の式で求められます。

$(60 - \text{エフェクト使用発音数}) \div \text{音色オシレーター数} = \text{使用可能最大発音数}$

例1: [PIANO 1]のバンク A(Grand Piano 1)を選んでリバーブをオンにした場合。
 $(60 - 10) \div 2 = 25$ 、使用可能最大発音数 25

例2: [E.PIANO 2]のバンクB(Vintage E.P.)を選んでコーラスをオンにした場合。
 $(60 - 3) \div 1 = 57$ 、使用可能最大発音数 57

レイヤー モードにして2つの音色を鳴らす場合、ダンパー・ペダルを使用したり、エフェクトをかけたりするときは、最大同時発音数を考えて音色を上手に選んでください。
 音色に使われているオシレーターの数は、 p.17「音色を選ぶ(シングル・モード)」を参照してください。

仕 様

	NC-500	NC-300
鍵盤	88 鍵(A0 ~ C8) リアル・ウェイテッド・ハンマー・アクション 2(RH2) 鍵盤	
タッチ・コントロール	ライト(軽め)、ノーマル(標準)、ヘビー(重め)	
ピッチ	トランスポーズ、ファイン・チューニング	
音律	平均律、キルンベルガー、ヴェルクマイスター	
音源	ステレオ・サンプリング音源	
同時発音数	60(最大)	
音色	24(8 × 3 バンク)	
エフェクト	リバーブ、コーラス(各 3 段階)	
デモ・ソング	音色デモ 8 曲、ピアノ・ソング 42 曲	
メトロノーム	テンポ、拍子、アクセント、音量	
レコーダー	2 パート、10,400 ノート / パート、20,800 ノート(最大)、録音、スタート / ストップ、ポーズ	無
ペダル	ダンパー*、ソフト*、ソステヌート (*印: ハーフ・ペダル対応)	
接続端子	アウトプット(L/MONO、R)、インプット(ステレオ・ミニ)、MIDI(IN、OUT)、USB、ヘッドホン × 2、ペダル、スピーカー	アウトプット(L/MONO、R)、MIDI(IN、OUT)、ヘッドホン × 2、ペダル
コントロール	パワースイッチ、マスターボリューム、リバーブ、コーラス、タッチ、トランスポーズ/ファンクション、バンク、サウンド、テンポ、メトロノーム、音色デモ、ピアノ・ソング	
スピーカー・オン / オフ	有	無
アンプ出力	20W × 2	15W × 2
スピーカー	13cm × 2、3.5cm × 2	10cm × 2(バスレフ・タイプ)
電源	AC 100V	
消費電力	39W	34W
外形寸法(W)×(D)×(H)	1426 × 436 × 817 mm	1426 × 436 × 780 mm
重量(スタンド、ペダル・ユニット含む)	47.3kg	41.3kg
カラー・バリエーション	ブラウン、ダーク・ブラウン、スノー・ホワイト	ブラウン、ダーク・ブラウン
キー・カバー	有	無
付属品	専用椅子、専用ペダル・ユニット、ペダル・コード、電源コード、ヘッドホン、楽譜集、CD-ROM(KORG USB-MIDI Driver for Windows XP)	専用椅子、専用ペダル・ユニット、ペダル・コード、電源コード、ヘッドホン、楽譜集

仕様および外装は改良のため予告なく変更することがあります。

MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。

Sound Processed with INFINITY™

NC-500のスタンドの組み立て方法



警告



必ず2人以上で組み立ててください。

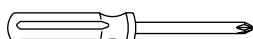
組み立て時の注意

正しく組み立てるために、以下の項目に注意して作業を行ってください。

- ❑ 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ❑ デジタル・ピアノ本体をスタンドにのせるときは、手をはさまないよう十分注意してください。
- ❑ デジタル・ピアノ本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

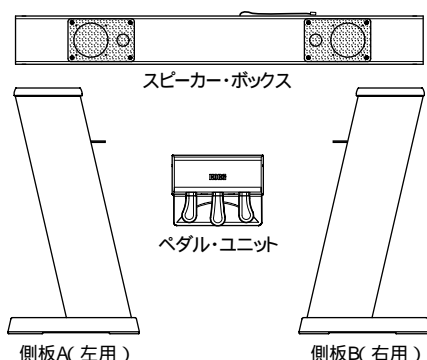
組み立て準備

お手持ちのプラスのドライバーを用意してください。



組み立て方法

1. 箱を開けて部品を取り出します。
下記の部品が揃っていることを確認してください。

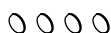


組み立て用付属品

本体固定ネジ...2本



キャップ...4個



ネジ (M6 x 26) ...4本



スプリング・ワッシャー...4個



平ワッシャー...4個



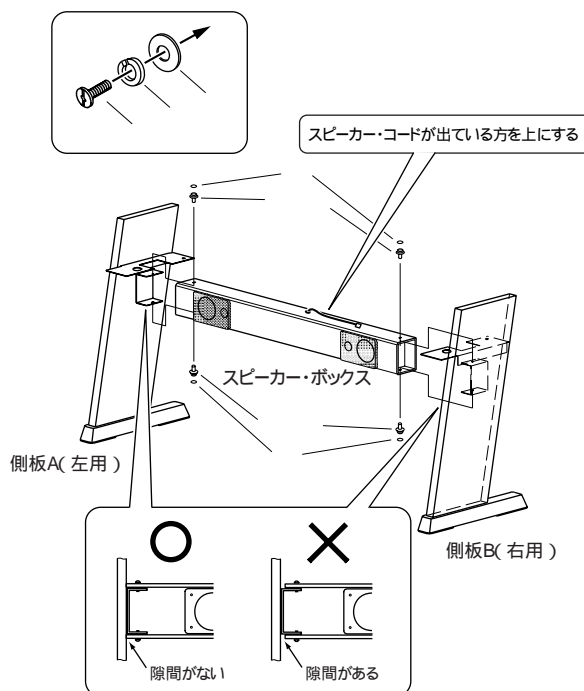
ペダル・コード...1本



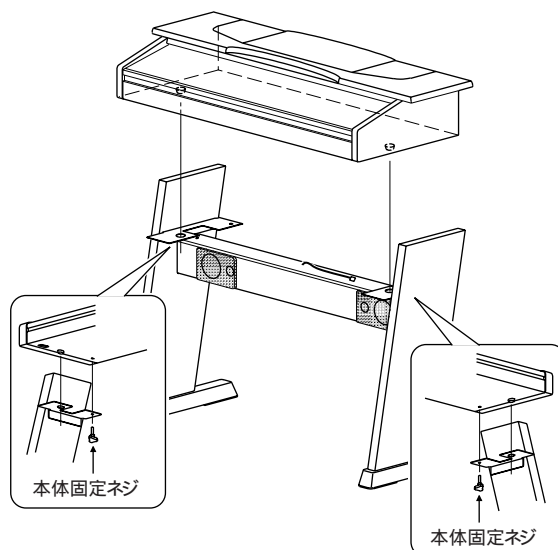
コードホルダー...3個



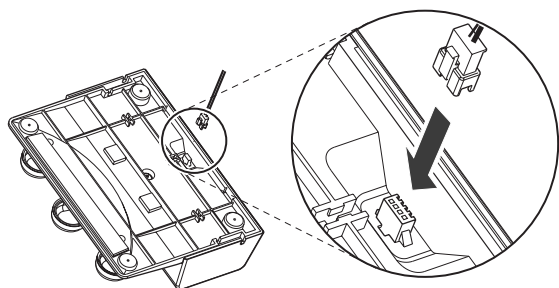
2. 側板AとBにスピーカー・ボックスを取り付けます。
側板の金具部分をスピーカー・ボックスに入れ、側板とスピーカー・ボックスとの間が左右共に隙間がないようにし、それぞれのネジ穴を合わせてください。付属の スプリング・ワッシャーと 平ワッシャーを ネジに通し、スピーカー・ボックスを4箇所固定します。次にネジ頭にキャップをかぶせます。



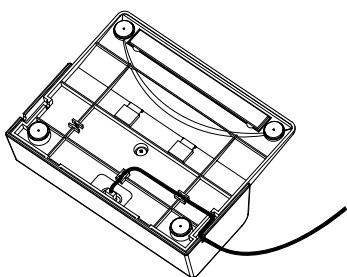
3. 本体を取り付けます。
本体底面にあるプラスチック製の足を、側板の金具の穴に入るようにのせ、 本体固定ネジで、下方から固定します。
- ⚠** 本体をスタンドにのせるときは、手を挟まないように、また下に落とさないように、ゆっくり行ってください。




4. ペダル・ユニットの裏にあるコネクタに ペダル・コードを接続します。

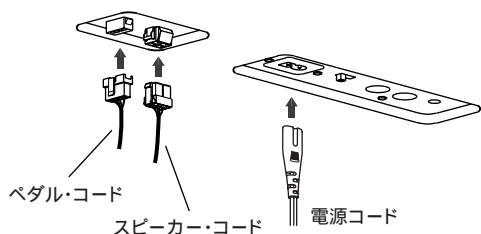


5. 接続したペダル・コードを向きに注意して、下の図のようにペダル・ユニットの溝にはめ込んで固定します。



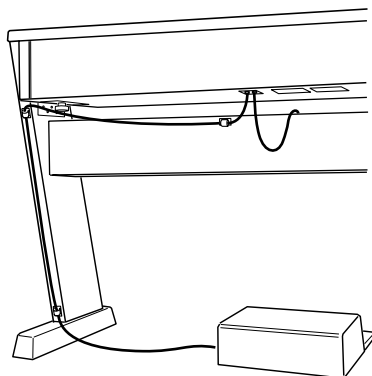
6. ペダル・コードとスピーカー・コードを本体底面のそれぞれのソケットに接続し固定します。電源コードをAC IN端子に接続します。

-  コード類の接続時は、コネクタの向きに注意してください。



7. 最後に コードホルダーを取り付け、ペダル・コードを固定します。

取り付けの例



組み立て後のチェック

- 部品は余っていませんか？
余ったときは、図中の使用先の位置を確認してください。
- 各ネジが緩んでいないかを確認してください。

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

- ネジの緩みについて
組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときはネジを締め直してください。
- 移動について
デジタル・ピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「取扱説明書」に従い、組み立て直してください。
- 分解について
スタンドを分解するときは、組立時の逆の順番で行ってください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。
- コネクタの外し方について
ペダル・コードやスピーカー・コードを外すときは、下の図のようにコネクタの固定用のツメを押しながら外してください。無理にコードを引き抜くと壊れる恐れがあります。

- ペダル・ユニットについて
ペダル・ユニットを床に置き固定した状態で長期間経つと、床の材質によっては跡が残ることがあります。

NC-300のスタンドの組み立て方法



警告



必ず2人以上で組み立ててください。

組み立て時の注意

正しく組み立てるために、以下の項目に注意して作業を行ってください。

- ❑ 部品の種類や向きを間違わないように注意して、手順どおりに組み立ててください。
- ❑ デジタル・ピアノ本体をスタンドにのせるときは、手をはさまないよう十分注意してください。
- ❑ デジタル・ピアノ本体をスタンドに固定する前に、本体前側に力を掛けすぎると、本体が落下することがありますので、十分に注意してください。

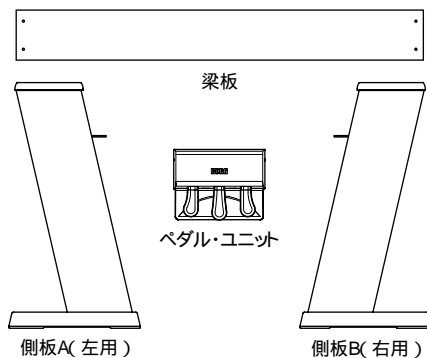
組み立て準備

お手持ちのプラスのドライバーを用意してください。



組み立て方法

1. 箱を開けて部品を取り出します。
下記の部品が揃っていることを確認してください。



組み立て用付属品

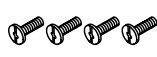
本体固定ネジ...2本



キャップ...4個



ネジ(M6 x 26)...4本



コードホルダー...3個



ペダル・コード...1本

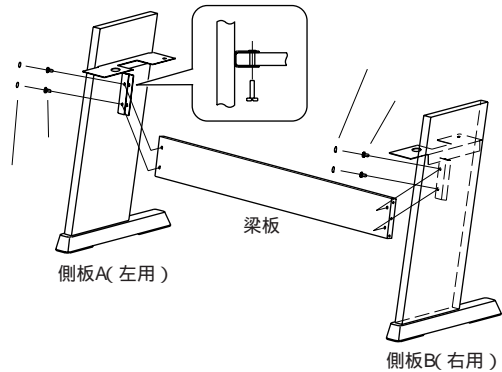


* 平ワッシャーとスプリング・ワッシャーは使用しません



2. 側板AとBに梁板を取り付けます。

それぞれのネジ穴が合うように側板の金具部分と梁板を合わせてください。付属のネジ4本で固定し、ネジ頭にキャップをかぶせます。

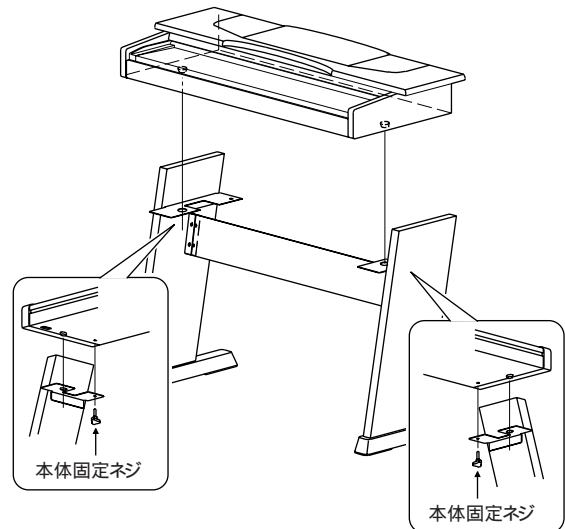


3. 本体を取り付けます。

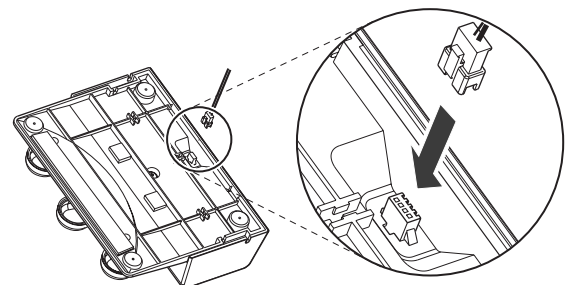
本体底面にあるプラスチック製の足を、側板の金具の穴に入るようにのせ、本体固定ネジで、下方から固定します。



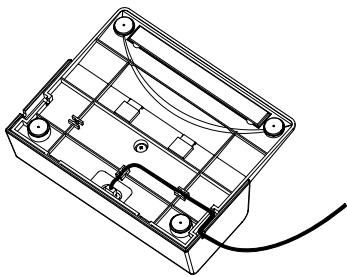
本体をスタンドにのせるときは、手を挟まないように、また下に落とさないように、ゆっくり行ってください。




4. ペダル・ユニットの裏にあるコネクタにペダル・コードを接続します。

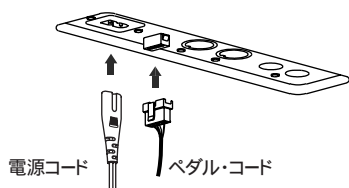


5. 接続したペダル・コードを向きに注意して、下の図のようにペダル・ユニットの溝にはめ込んで固定します。



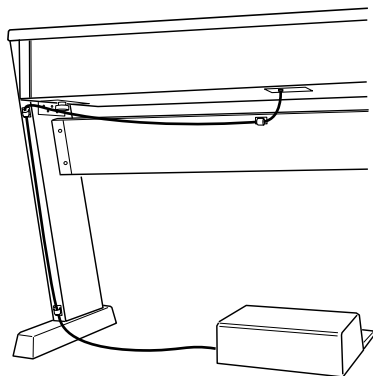
6. ペダル・コードを本体底面のソケットに接続し固定します。電源コードをAC IN端子に接続します。

-  コード類の接続時は、コネクタの向きに注意してください。



7. 最後に コードホルダーを取り付けペダル・コードを固定します。

取り付けの例



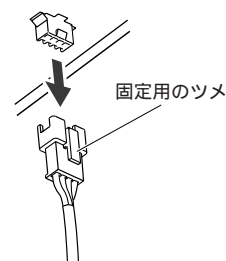
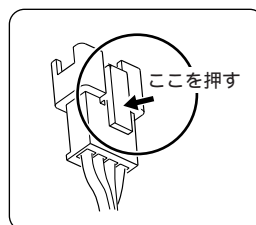
組み立て後のチェック

- 部品は余っていませんか？
余ったときは、図中の使用先の位置を確認してください。
- 各ネジが緩んでいないかを確認してください。

その他の注意

組み立てた後は、以下の項目に注意してください。

- ネジの緩みについて
組み立て後、時間が経過すると、各部のネジが緩むことがありますので、ネジが緩んでいないかを定期的に確認することをおすすめします。また、スタンドの揺れが激しいと感じる場合、ネジが緩んでいる可能性があります。そのときはネジを締め直してください。
- 移動について
デジタル・ピアノ本体をスタンドから取り外し、本体とスタンドを別々に移動してください。移動後は「取扱説明書」に従い、組み立て直してください。
- 分解について
スタンドを分解するときは、組立時の逆の順番で行ってください。分解後、ネジなどの部品をなくさないように、保管してください。
- コネクタの外し方について
ペダル・コードを外すときは、下の図のようにコネクタの固定用のツメを押しながらかけてください。無理にコードを引き抜くと壊れる恐れがあります。



- ペダル・ユニットについて
ペダル・ユニットを床に置き固定した状態で長期間経つと、床の材質によっては跡が残ることがあります。

スイッチ、鍵盤の機能

[SOUND]スイッチ

[TOUCH]、[REVERB]、[CHORUS]、[METRONOME]、[TRANSPOSE/FUNCTION]の各スイッチを押しながら[SOUND]スイッチを押すと、下記の表の設定ができます。

	[PIANO 1]	[PIANO 2]	[E.PIANO 1]	[E.PIANO 2]	[ORGAN 1]	[ORGAN 2]	[HARPSI/VIBE]	[STRINGS/CHOIR]
[TOUCH]	標準	重い	軽い	—	ヴェルクマイスター	キルンベルガー	デモ・パート ボリューム下げる	デモ・パート ボリューム上げる
[REVERB]	標準	深い	浅い	—	—	—	—	—
[CHORUS]	標準	深い	浅い	—	—	—	—	—
[METRONOME]	2/4拍子	3/4拍子	4/4拍子	6/4拍子	アクセント音 (標準音)	アクセント音 (ベル音)	メトロノーム ボリューム下げる	メトロノーム ボリューム上げる
[TRANSPOSE/ FUNCTION]	ローカル オン/オフ	プログラム チェンジ オン/オフ	コントロール チェンジ オン/オフ	—	—	—	—	データ・ダンブ (NC-500のみ)

レコーダー・セクション(NC-500のみ)

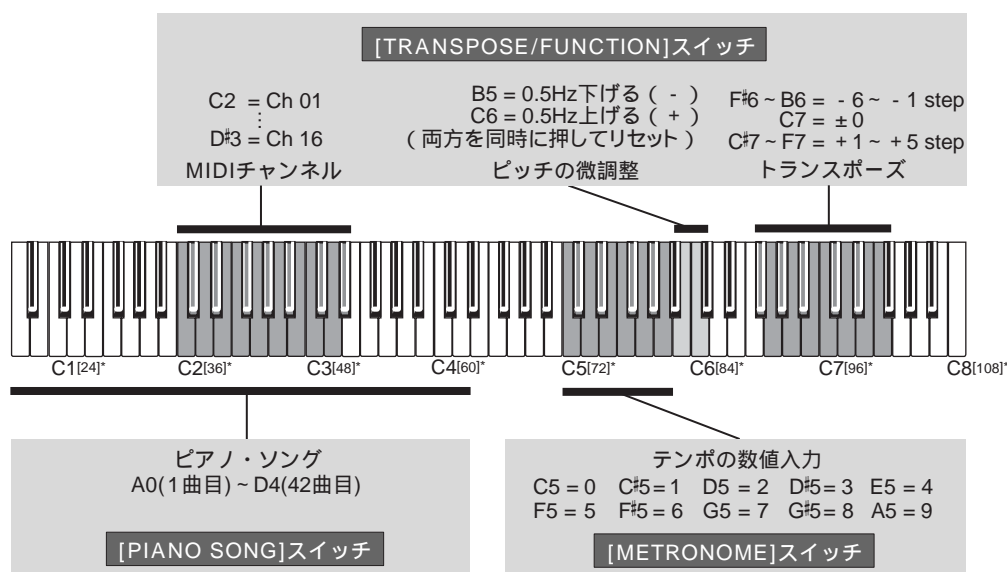
[TRANSPOSE/FUNCTION]スイッチを押しながら[RECORDER]の各スイッチを押すと、下記の表の設定および確認ができます。

	[PART 1]	[PART 2]	[PAUSE]	[START/STOP]	[REC]
[TRANSPOSE/ FUNCTION]	パート1 消去	パート2 消去	—	録音データ量	—

	[PART 1]	[PART 2]
[TOUCH]	音量を大きくしたい [PART]スイッチを押す	

鍵盤

[PIANO SONG]、[METRONOME]、[TRANSPOSE/FUNCTION]の各スイッチを押しながら、機能が割り当てられた鍵盤を押すと、下図の設定ができます。



[] 内の数字はMIDIノートNo.

ファンクション...		送信	受信	備考
ベーシック チャンネル:	電源ON時 設定可能	1 1－16	- 1－16	
モード	電源ON時 メッセージ 代用	× *****	3 ×	
ノート ナンバー:	音域	15－113 *****	0－127 21－108	
ベロシティ:	ノート・オン ノート・オフ	9n, V=1－127 ×	9n, V=1－127 ×	
アフタータッチ:	キー別 チャンネル別	× ×	× ×	
ピッチ・ベンダー		×		
コントロール チェンジ	7 11 64 66 67 91 93 120, 121	×		ボリューム *1 エクスプレッション *1 ダンパーペダル *1、*3 ソステヌートペダル *1 ソフトペダル *1、*3 リバーブ *1 コーラス *1 オールサウンドオフ、リセットオールコントロール
プログラム チェンジ:	設定可能範囲	0－23 *****	0－23 0－23	*2
エクスクルーシブ				デバイスインクワイアリー、サウンドデータダンプ
コモン:	ソング・ポジション ソング・セレクト チューン	× × ×	× × ×	
リアルタイム:	クロック コマンド	× ×	× ×	
その他:	ローカル・オン/オフ オール・ノート・オフ アクティブセンシング リセット	× ×	 × ×	*4
備考				
*1：コントロールチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。				
*2：プログラムチェンジがイネーブルに設定されているとき、送受信する。				
*3：ハーフペダルの出力値（0, 38, 74, 127）。				
*4：レイヤー・モードから、シングル・モードに戻るときと、ローカル・オフにしたとき送信する。				

モード1: オムニオン、ポリ

モード2: オムニオン、モノ

: あり

モード3: オムニオフ、ポリ

モード4: オムニオフ、モノ

×: なし

MIDI IMPLEMENTATIONの配布についてはコルグお客様相談窓口へお問い合わせ下さい。

アフターサービス

保証書

本製品には、保証書が添付されています。
お買い求めの際に、販売店が所定事項を記入いたしますので、「お買い上げ日」、「販売店」等の記入をご確認ください。記入がないものは無効となります。
なお、保証書は再発行致しませんので、紛失しないように大切に保管してください。

保証期間

お買い上げいただいた日より一年間です。

保証期間中の修理

保証規定に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。
本製品と共に保証書を必ずご持参の上、修理を依頼してください。

保証期間経過後の修理

修理することによって性能が維持できる場合は、お客様のご要望により、有料で修理させていただきます。
ただし、補修用性能部品(電子回路などのように機能維持のために必要な部品)の入手が困難な場合は、修理をお受けすることができませんのでご了承ください。また、外装部品(パネルなど)の修理、交換は、類似の代替品を使用することもありますので、あらかじめサービス・センターへお問い合わせください。

修理を依頼される前に

故障かな?とお思いになったら、まず取扱説明書をよくお読みのうえ、もう一度ご確認ください。
それでも異常があるときは、サービス・センターへお問い合わせください。

修理時のお願い

修理に出す際は、輸送時の損傷等を防ぐため、ご購入されたときの箱と梱包材をご使用ください。

ご質問、ご相談について

アフターサービスについてのご質問、ご相談は、サービス・センターへお問い合わせください。
商品のお取り扱いについてのご質問、ご相談は、お客様相談窓口へお問い合わせください。

WARNING!

この英文は日本国内で購入された外国人のお客様のための注意事項です

This Product is only suitable for sale in Japan.
Properly qualified service is not available for this product if purchased elsewhere. Any unauthorised modification or removal of original serial number will disqualify this product from warranty protection.

株式会社コルグ

お客様相談窓口 TEL 03(3799)9086

サービス・センター: 〒143-0001 東京都大田区東海5-4-1

明正大井5号営業所コルグ物流センター内 TEL 03(3799)9085